

北海道鮭鱈 漁業協會 役員並評議員氏名

會長	半田芳男	理事	古屋正氣	評議員	大瀧直平
常務理事	船越鶴男	同	若井善藏	同	小倉鶴次郎
理事	相原重治	同	松永富男	同	田村大三
同	吉岡由太郎	同	石田露松	同	和田雅且
同	米澤勇	同	本田善助	同	野口治作
同	三好竹勇	評議員	平龜治	同	村上儀藏
同	三上重藏	同	佐藤常三郎	同	奥谷惣一
同	堺哲彌	同	熊谷侃	同	三國友之助
同	新保又四郎	同	相吉忠正	同	荒川徳次郎
同	植松適	同	小森治作	同	村山喜作
同	稻垣龍	同	三上壽一	同	佐賀正三
同	林好次	同	阿部庄太郎	同	伊達醇吉
同		同		同	高田賢次郎

魚類の精子の活動に關する一、二の觀察

叢論

北海道水産孵化場 山本喜一郎

一、前がき

鮭鱈類の卵は海水中で受精出来るかどうかと云う問題に就てRunnstrom (註一)がSalmo salvelinusを材料として研究している。其の報告には八一〇%に薄めた海水(普通海水の約三分の一)中では受精が行われるが、其の初期の發生は著しく抑制され、發生は害されると述べられている。其れより濃い海水では卵が發生することが出来ないといふ理由で彼は實驗を行つていなう。然し彼の此の實驗は次の點で難がある。彼は八一〇%の海水中で媒精し、四一五時間後に其れを淡水に移し、約二五五時間経て胚が長く延びた時期で觀察している。海水中で媒精しても、四一五時間後に淡水に移すならば、或濃度の範圍内に於ては始めから淡水で媒精した場合と同様な意義を有し、海水中で受精し得るか否かの判別にはならないことは、山本(二)の報告の示す通りであるから、Salvelinusでは八一〇%で受精出来るというRunnstromの報告は今の處疑問視さるべきものと思われる。鮭の卵は約 $\frac{1}{2}$ 海水に等しい6%平衡食鹽水より稀薄な液中では受精出来るが、 $\frac{1}{2}$ 海水に等しい $\frac{1}{2}$

平衡食鹽水より濃い液では受精出来ない(三)従つて鮭の卵はRunnstromにより報告された結果より遙かに薄い海水中でなければ受精出来ない。又海産の黒頭鱈の卵では其の受精可能な鹽分の下限は $\frac{1}{2}$ 海水の有する鹽分で、其れより薄い海水では受精出来ない(四)此の様に淡水魚は淡水又は相當濃度の低い海水でなければ受精出来ないし、海産魚はある程度以上の濃い海水でなければ受精しない。之は如何なる理由によるものであろうか。

此の理由の一つとして精子の活動力が考えられる。Toot(五)は精子の活動が受精に深い關係があり、精子の活動が卵に精子が入るのに必要な一つの條件であると述べている。此の様な意味からして、筆者は魚類の精子の活動に就て關心を有し觀察を行つてゐる。茲には其の内興味あると思われる二、三の結果を報告してみたい。

二、觀察

鮭、ウグヒ及黒頭鱈の精子の活動し得る鹽分の範圍。淡水魚の卵は淡水又は相當稀釋された濃度の低い海水でなければ受精出来ないし、海産の硬骨魚の卵は、ある程度

以上の濃い海水でなければ受精出来ないという上述の事實と關聯して吾々の興味を引く問題は淡水魚及海産魚の精子は如何なる鹽分の範圍で活動し得るか云うことである。私は次に之に就て今迄觀察した淡水産の鮭、ウグヒ及海産の黒頭鰈を例として述べてみたい。

實驗には自然海水の代りに平衡食鹽水を用いて精液を稀釋し、精子の運動状態を顯微鏡下で觀察した。平衡食鹽水は先づ $1M NaCl$ と同調の原液を作つた。即ち $1M NaCl$ 及び KCl 溶液 $1/2$ 、 $MgCl_2$ 溶液を $100:118:34$ の体積比に混合し $NaHCO_3$ を $PH 7.0$ に調整した。それを必要に應じて緩衝蒸溜水 $PH 7.0$ で $1/2$ 、 $1/4$ 、 $1/8$ ……と稀めた従つて此等の稀釋度を示す數字は同時に滲透濃度を示すことになり、 $1/2$ は略普通海水の濃度に相當する。

鮭の精液を $1/2$ より薄い液で稀釋すると(蒸溜水でも)精子は極めて活潑に運動するが、 $1/4$ で稀釋した場合には其の運動は僅かに認められる程度であり、 $1/8$ 中では全く活動しない。大体 $1/4$ 附近が活動するか否かの境目の様である。此の濃度は略 $1/2$ 海水に相當しており、精子は卵の受精可能な海水よりは可成り濃い海水中でも活動し得ることが判る。同じ淡水魚でもウグヒの精子では $1/4$ 以下の液でない運動せず、鮭の精子よりも其の活動し得る鹽分の範圍は狭い。

海産の黒頭鰈の精子の場合は、淡水産の鮭やウグヒの精子とは全く趣を異にし、略 $1/2$ を境目として其れより濃い液動が認められるに過ぎず、 $1/4$ モルでは全く活動しない。其の運動するか否かの境目は大体 $1/2$ モル附近であり、其の滲透壓は略 $1/2$ 平衡食鹽水及び海水の其れに等しい。従つて鮭の精子の活動には稀釋液の滲透壓が重大な役割を演じており、稀釋液の滲透壓の低いということが精子の活動に必要な條件の一つとなつてゐることが判る。

(ロ) 海水中に含まれてゐる重要な鹽 $NaCl, KCl, CaCl_2$ 。海水が濃い、薄いと云う場合其の相違の重要な要因の他の一つは其れに含まれてゐる鹽の量(其の大部分はイオン化してゐる)の差である。

勿論此の鹽の量は前に述べた様に滲透壓を決定するものであり、滲透壓としても精子の活動に影響があるが、其の外に鹽イオン其のものも影響も亦考えられる。其れ故海水中の重要な鹽である $NaCl, KCl, CaCl_2$ の個々が精子の活動に如何なる影響を及ぼすかを調べる必要がある。今之等の鹽のモル液を作つて其れでウグヒの精液を稀釋して檢鏡した。

$NaCl$ $1/2$ モル以下の液でのみ精子は活動する。

KCl $1/2$ モル以下の液でのみ精子は活動する。

$CaCl_2$ $1/2$ モル以下の液でのみ精子は活動する。

此の結果から $NaCl, KCl$ 液中では蔗糖液で精子が活動し得なくなる濃度の液と殆んど等しい滲透壓を有する液まで精子は活動するし、又活動の認められない $1/2$ モル以上の

では活動するが、其れより稀薄な液中では運動が認められない。

此の際精子が活動しないのは必ずしも精子が死んでゐるとか、又全く活動力を喪失してしまつてゐる爲ではない。と云うのは今ウグヒの精子の場合 $1/2$ で稀釋して檢鏡すると全く精子の活動が認められないが、其の精子浮遊液に一、二滴の淡水を加えて稀釋液の濃度を下げると精子は活動し始める。勿論稀釋液の濃度が極めて大きく $1/2$ 以上の場合には精子は全く死んでしまつており、其の際には浮遊液に水を加えて濃度を下げても精子は活動を始めない。

次に此の様に淡水魚の精子は淡水又は稀薄な海水、海産魚の精子では海水又は其れに近い濃い海水でなければ運動しない理由に就て考察してみたい。

(イ) 滲透 壓

先づ海水が濃い、薄いという場合其の最も重要な相違の一つは滲透壓の差である。海水又は平衡食鹽水の場合其の滲透壓は其の中に含まれてゐる鹽の量によつて決定されておるが、鹽溶液の場合は鹽そのもの、精子に對する害作用も考慮せねばならない故、滲透壓そのものが精子の活動に關係あるかどうかを知るには種々の滲透壓を有する蔗糖液中での精子の活動を觀察する方がよい。今 $1/2$ 、 $1/4$ 、 $1/8$ 、 $1/16$ モルの蔗糖液で鮭の精液を薄めて檢鏡すると、 $1/2$ 、 $1/4$ モルでは精子は活潑に運動するが、 $1/8$ モルでは僅かに其の運

液でも其の活動力は全く喪失されておるのでなく其の浮遊液に淡水を加えて稀釋液の濃度を薄めると活動を始める。それ故 $1/2$ モル以上の液で精子が活動しないのは、之等の鹽による滲透壓が主な働きをしてゐるものと想像され、鹽イオンそのものの精子に對する害作用は格別考えられない。然し $CaCl_2$ の場合は精子の活動し得なくなる濃度は遙かに低く $1/2$ モル附近であるばかりでなく、精子は其の際には凝集し、白變して死んでしまふ。二價の陽イオンを有する此の鹽は、單獨で、然も可成り濃い状態で存在する時は精子に害作用を及ぼし、精子の活動が認められなくなる蔗糖液の滲透壓濃度に達しなくとも精子は死んで動かなくなる。然し平衡食鹽水中に於ては $CaCl_2$ の量は上記の様に $NaCl$ 100 に對し 34 の割合に含まれてゐるから實際にウグヒの精子の活動しない $1/2$ 平衡食鹽水中には $1/8$ モルと云う様な濃い $CaCl_2$ は含まれてゐないし、又此の鹽は單獨の場合と異なり $NaCl, KCl$ と混合されて存在する場合は鹽の拮抗作用により生物に對する害作用は減ぜられるのが普通であるから、海水中でウグヒの精子が活動しないのは此の鹽の害作用によるものではないであらう。

(ロ) 水素イオン濃度

特殊な場合を除いて、淡水と海水とは水素イオン濃度に可成りの相違が見られる。海水は $8 \cdot 118 \cdot 4$ であるが、淡水では $6 \cdot 417 \cdot 2$ 程度である。水素イオン濃度は精子

の活動に深い関係があり、海産の無脊推動物の精子の場合にはHイオンにより其の運動は抑制され、OHイオンにより促進されることが知られている。ウグヒの精子は、500ノルマルのHCl液より薄い液であると運動出来るが、1,250ノルマルより濃い鹽酸液では活動しない。従つてウグヒの精子の活動の際にもHイオンは抑制的に働くことが判る。NaOH液中であると精子は5%ノルマル以上であると活動し得ないが1%ノルマル以下であると活動する。それ故OHイオンはウグヒの精子の活動には阻止的に働かない様であるが、促進的に働くかどうかは今の處十分判つていない。

以上の結果からウグヒの精子の場合は相當廣いPHの範囲内で活動が認められ海水と淡水に普通に見られる様なPHの變化範囲では運動が阻止される様な事は考えられない。

三、結 び

精子は親魚より排出したままで稀釋しなければ活動しない。Gray(6)は精巢内で精子が活動することの出来なものは餘り多數が詰つていて、互に運動を妨げ合つてゐるためであると云つてゐる。確かに稀釋しなければ精子は活動しないし、稀釋度によつて精子の活動の度合が左右されることが知られてゐる故、稀釋することが精子の活動に必要な一つの條件であることはうなづける。然し上に記した様にしたと稀釋してもウグヒの精子では平衡食鹽水より濃い液では精子の活動力が全く失われてゐないに拘らず、運

動が認められない。従つて精子の活動には稀釋することの外にある種の要因が必要であることが判る。

鮭やウグヒの精子が普通海水中で活動しないのは、此の種のある要因が海水中では缺如してゐる爲であることは想像に難くない。

吾々は前に述べた觀察で鮭やウグヒの精子の活動には滲透壓が低いと云うことが必要な一つの條件であり、海水中で之等の精子が活動し得ないのは主として海水の滲透壓が高いせいであることを知つた。

それでは稀釋液の滲透壓が高いと何故鮭の精子は活動しないか、と云う疑問が次に起るが、其れは精子の活動に關する根本的な問題に屬し、本報告の領域外に屬する。

終に此の觀察は北大犬飼、青木兩教授の指導の下に筆者が現在行つてゐる魚卵の受精に關する研究に附帶してなしたものであり、木村鮭卵孵化場長の格別の配慮を賜つた。記して之等の各位に深謝の意を表す。

註

- 1' Runström, F., 1920, Acta Zool., 1.
- 1' 山本喜一郎 生理生態(未版)
- 3' 水産孵化場報告, 三卷(未版)
- 4' 生物(未版)
- 5' Loeb, J., 1915, Amer. Nat., 49
- 6' Gray, J., 1928, Brit. J. Exp. Biol., 5.

千歳川で捕獲された鮭 *Oncorhynchus keta* (Walbaum) の两性 Hermaphroditic に就いて

北海道水産孵化場 柴田 幸一郎
千歳支場 伊藤 繁

千歳川産鮭の生殖期に於ける雌雄形態の變異に就ては阪本(1935)の研究あり、同氏は形態變異を第二次性徴たる吻長の變化、吻頭に求め、之が平均値を雌雄ともH.O.17、雄23.48(H.O.17)にして本變化は雌雄間の實質差異を表明する一要因なるを指摘してゐる。併して本個体に於ける平均値は25.5にして双方の中間値を示し之が外形は雌雄形態の中間に位するものと云い得るであらう。



第一圖

昭和二十一年十月當場所屬西越捕獲場(千歳川)に於て捕魚車に依り雌雄同体の鮭親魚を捕獲した。雌雄同体の例は鱈類に於て左程稀でない様であるが、鮭に於ては甚だ稀であつて筆者等の知見範囲でわ川上、今井(1934)の摺鉢湖沖で流網に依り捕獲された記述を知るのみであるが、同氏等の報告が生殖素に對する概要のみで、親魚の体長、年齢全く不明で之が形態に全く觸れて居らない。而して本個体の如く完全に生殖素の發達せるものは殆んど皆無と信ぜられるので、茲に之が概要を報告し魚類雌雄性研究の一資料とした。

外形

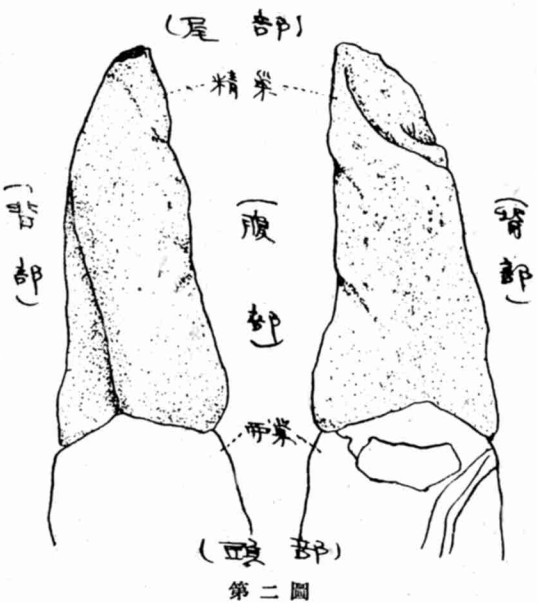
外形は一見雌で採卵の爲め腹部を切解せんとして採卵刀の感觸に依り雌雄同体なるを推知し得た。

次に魚体各部の測定値を示せば次の如くである。

測定部	全長	体長	頭長	吻長	体高	体巾	眼際	尾柄高	側線	年輪
測定値	74.3	62.5	16.3	6.1	15.5	8.0	6.2	4.5	134	5
	cm.	cm.	cm.	cm.	cm.	cm.	cm.	cm.	個數	年輪

生殖素 生殖巢第一圖の如き形状を呈し、左右共に上半は卵巢

(左17.8cm. 右17.4cm.) 色わ桃色、下半は精巢 (左15.8cm. 右17.4cm.) (右13.8cm. 右9.8cm.) を以て占められ白色を呈している。卵巢は稍未熟であるが卵徑の耗の未達達卵の點在を認められる。卵巢より精巢への移行部は完全に分離可能なるも、左側内方の一部に於てモザイク状に入り込み、此の部分の卵巢は未達卵を多数有し且つ其下部即ち精巢の末端は内方に傾られたる如き形状を呈している (第二圖)



考 察
魚類並に甲殻類の雌雄性の問題に就て F. Friess, E. (1934)

以上發生過程が鮭鱒類の近縁性より鮭 *Oncorhynchus keta* (Walbaum) と軌を一にするならば本個体の如き雌雄同体は先づ雄として發生を示し、次いで生殖巢の尾端より退化分裂し増殖途次に於いて何等かの要因に依り退化が停止し残余の部分は其儘發育して卵巢となつたものと考えられる。兎もあれ本個体の如き畸形魚類雌雄性の究明に一つの貴重な暗示を與えるものでわなからうか。

文 獻

- (一) Friess, E. (1934) 淡水魚の一種 *Xiphophorus Hellei* に於ける雌雄性の逆轉、動物學雜誌 Vol.46 P.287
- (二) 川上四郎、今井晴一 (1934) 鮭の兩性に就て 北海道水産試験場事業旬報第二六一號
- (三) 木下敏夫 (1934) 鮎の雌雄同体に就いて 動物學雜誌 Vol.46 P.73

鮭鱒類の洄歸性を證明する二、三に就いて

北海道水産試験場 川合豊太郎

一、緒 言

鮭鱒類の洄歸性は確定的なものとして一般の常識となつて居る。而して不漁期に直面すると此の定説に疑ひの生ず

わ淡水魚の一種 *Xiphophorus Hellei* Heckel の雌雄性の逆轉、木下敏夫 (1934) の鮎の雌雄同体に關する研究、新山英二郎 (1934) の本邦産ざりがにに見出された精卵巢、木下好治 (1934) の黒鯛に於ける雌雄性の轉換、松井佳一、牧野佐二郎 (1935) の鯉と鮎に見出された間性等の各業績あるも瞥見して以上魚種に於て雌雄同体の存在を認めるも之が要因に就ては確たる結論を見出し得ない様である。

更に田中林藏 (1939) わ紅鱒 *Salmo trutta* Gibbons サクラマス *Oncorhynchus masou* (Brevoort) を使用し酸又わアルカリ溶液の關與が産仔性に及ぼす影響に就て觀察し、産仔總數三、四一六尾の性能わ 47.5% へ 52.7% で、雄性仔の過剩を招來する事を報じている。花岡 (1937) わ *Misgonyx* の紅鱒の雌雄比の研究を次の如く論じている生殖腺發生の極めて初期に於てわ雌雄共に生殖腺内に大型な形態的には卵細胞と全く異なる生殖細胞が生じ、精巢が生ずる際にわ之等の卵細胞様の生殖細胞が尾端の部分から次第に退化し、他の小なる生殖細胞が新に分裂増加して後の精母細胞が生ずるのである。

即ち精巢は形態的にわ一見卵巢様の構造を有する生殖腺が出来上つた後、改めて其の生殖腺内に改造の作用が營まれ其の結果として二次的に生ずるのである。而して此際改造の初まる點わ常に尾端にあり、頭端に向つて作用が進行する。卵巢は初めの生殖腺が其儘の形で發すると言う。

- (四) 新山英二郎 (1934) 本邦産ザリガニに見出されたる精卵巢 動物學雜誌 Vol.46 P.367
- (五) 木下好治 (1935) 黒鯛に於ける雌雄性の轉換につき 動物學雜誌 Vol.47 P.173
- (六) 松井佳一、牧野佐二郎 (1935) 鯉と鮎との雜種に見出された性に就いて 動物學雜誌 Vol.47 P.45
- (七) 内田 亨 (1935) 雌雄的不分化雜種に及ぼせる卵巢移植に依るフリーマーチン影響精卵巢につて 動物學雜誌 Vol.47 P.653
- (八) 阪本勝一 (1935) 鮭の鼻曲りに就いての一觀察 養殖會誌 Vol.5 No.78
- (九) 花岡謹一郎 (1937) 虹鱒に於ける雌雄性の問題 鮭鱒養殖第九年三四號
- (一〇) 田中林藏 (1939) 乳酸及重曹が鱒類の仔魚の性能に及ぼす影響 日本水産學會誌第七卷第六號

る場合が度々ある。鮭鱒類の洄歸の証明材料として現在掲げられて居るものは左記の如き事項である。

- 1. 稚魚の鰓蓋骨、脂鱗等を切断する標識魚の洄歸

2. 孵化放流に依る遡上の増加及遡上の盛期に變化を生ぜしめた事
3. 統計學的に放流數と洄歸年の漁獲高を算定し証明せるもの等

右の内2の場合の証明事項としては半田芳男氏が石狩川に於ける鮭遡上變化、北見頓別川に於ける鮭の洄歸、支笏湖に於ける姫鱒の洄歸等本道産のものにつき洄歸の例をあげ其の証明を述べられて居り一般の信ずるところである。

昭和九年以降昭和十三年に至る間、北海道水産試験場が本道産秋鮭と北洋方面白鮭の系統洄游關係を探索した際、二、三の洄歸性を推知し得る事項を發見したので次に述べて見たいと思ふ。唯調査材料の古い事及調査回數が少ない事及紛失した資料もあり的確性を欠くが、参考となり又後日本調査に従事する者が再検討の上明確にして戴けば私の喜びとする所である。

二、鱗層の考察に依る鮭の洄歸性

昭和十一年、余等が調査船にて時不知末期のもの行末を追究中、七月十八日色丹島出崎南々東五裡で漁獲した二三尾及七月二十一日擇捉島脊卸岬南微東々東六・五裡で漁獲した三尾につき調査の際前者の内一尾、後者の内二尾は鱗層の形式が紅鱒等の如く核心部に淡水滯泳の徴候を認められた。搖籃の地に湖沼等の在ることが推定されたので、八月三日此の條件を具備する擇捉島年萌湖に遡上するもの

が多く目的の一部を達した。

- (1) 採集場所及時期 網走川捕獲場 自十月三十一日 至十一月一日
- (2) 調査尾數 一四六尾

調査は鱗の核心部の鱗脈形式に依りA、B、C、D及CとDの中間型のDの五種に分類し其の出現狀況を調べた各



D型の鮭鱗

型の特徴は次の如し。
A型……核心部より第一冬期帯迄略々等間隔の鱗脈を形

につき調査を試みた。當日は二尾より捕獲されず且つ鱗は欠刻多く目的を達し得られなかつたが、二尾とも核心部に



D型鮭鱗の核心部の擴大

淡水生活の徴候を認められた。後日新妻六郎氏の協力により九月十日捕獲の調査材料五〇尾を得たが、之も鱗に欠刻多き傾向を知るのみで目的を達し得なかつた。

昭和十二年十月下旬、機會を得て網走川に遡上する鮭の調査を實施した結果、豫想以外に淡水滯泳の組成を示すも

成せるもの。

B型……最初の鱗脈數條間は比較的廣間隔、次の數條は狭間隔、それより外部第一冬期帯迄は再び廣間隔の鱗脈排列状態をなせるもの。

C型……最初十數條内外の鱗脈は比較的狭間隔に排列されそれより外部第一冬期帯迄は廣間隔となれるもの

D型……核心部の鱗脈排列状態C型よりも更に密にして密部の鱗脈稍々少きもの。

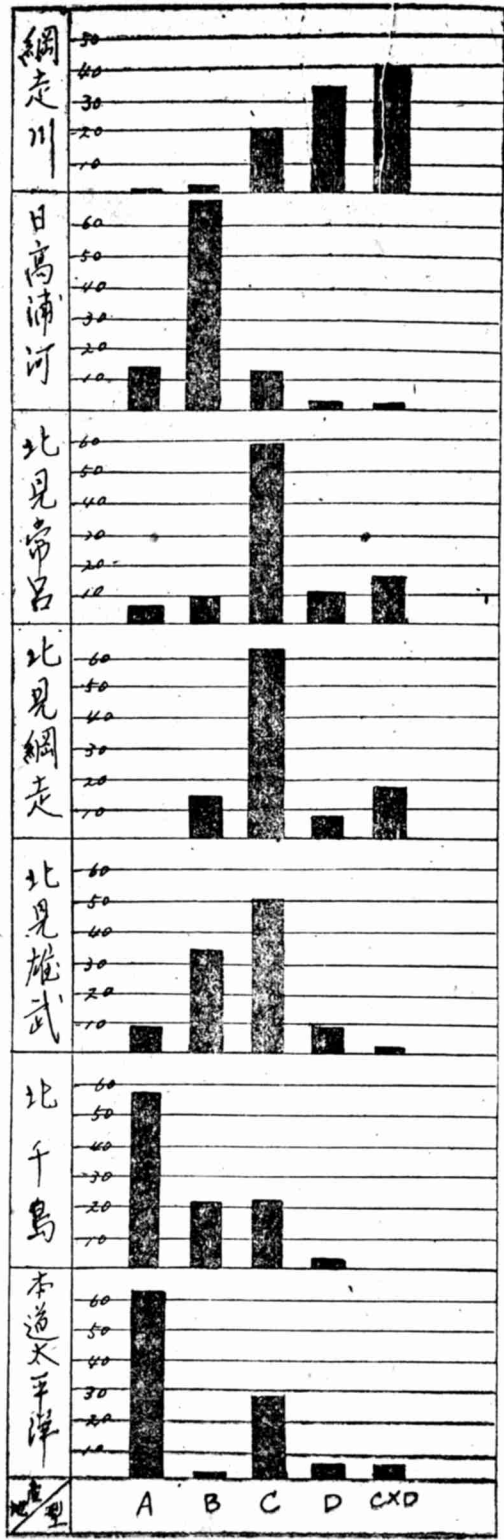
D.C型……C型とD型の中間型。
既述の如き種々の鱗脈の成因については、後日の研究を待つこととしD及C.D型等は紅鱒の第一年目の鱗脈に類似する點より考察して、淡水に停滯するに因るものと推知される。調査の結果並他地方産のものとの比較を示せば次表及次圖の如し。

和十二年産鮭の鱗層調査表

産地	名稱	採取時期	調査尾數				
			A型	B型	C型	D型	C.D型
北海道本島及南部千島道海	時不知	自6月16日	158	4	70	11	11
		至8月26日	622	16	276	43	43
北千島	白鮭	自6月27日	194	68	73	5	
		至8月4日	574	19	216	15	
雄武村	赤鮭	自10月20日	32	141	200	34	4
		至10月24日	411	78	343	487	83
							10

浦河町	秋鮭	自10月22日 至10月24日	217	30	151	29	5	2
				13.8	69.6	13.4	2.3	0.9
網走町	秋鮭	9月23日	68	—	9	43	5	11
				—	13.2	63.2	7.4	16.2

菅日村	秋鮭	9月24日	46	3	4	27	5	7
				6.5	8.7	58.7	10.9	15.2
網走川	秋鮭	自10月31日 至11月1日	146	1	3	31	51	60
				0.7	2.1	21.2	34.9	41.1



網走川のものは右表に示せる如くD及C.Dを加えれば其の出現七六・〇%を占め、他地方のものに比し出現が非常に多い。網走川、年崩川兩者の例より考察して搖藍の河川が湖沼に注入して居り、稚魚が降海に當り湖沼内に入り一時停滯の上河口を求めて降海するもの、如く推察される。此

の停滯が鱗層の核心部に密部を形成するものならん。而して調査資料の七六・〇%がD及C.D型を以て形成されて居ると云う事は産卵のため搖藍の地を求めて遡上した即ち洄歸せるものと云う事が出来よう。既述の如く鱗層の形成より考察して洄歸性を証明する一補足資料となし得ると思考す

三、擇捉島に於ける紅鱒の洄歸

擇捉島に於ける紅鱒の遡上は東岸の得茂別湖、年崩湖、西岸ではラウス沼、トロー沼及藥取湖の五ヶ所と記憶する。右の内ウルモベツ湖は本邦で有名な紅鱒の産地である昭和十一年八月上旬年崩湖に遡上する紅鱒を調査せるに小形のもの多く、体長五五種前後の四年生のB型(鱗形式分類の符號で滿一ヶ年淡水生活をすこせるもの)を以て占めて居るに反し、得茂別湖に遡上するものは体長六三種前後の五年生のB型を以て占められて居る。兩湖は擇捉島の東岸に在り僅に三四哩より距離を持たぬが前記の如く顯著な相異を示し地方型を明確に表現して居り洄歸の一証明資料と思考される。測定値の比較を記せば次表の如し。(得茂別に於ける測定表を欠くため、厚岸沖で漁獲せるもの、測定値を比較し参考に供す)

紅鱒魚體測定表

採集地	採集月日	全長			体重			生殖素重量		備考
		最大	最少	平均	最大	最少	平均	♂	♀	
年崩川	昭和11年 8月3日	61.5 C.m	52.0 C.m	55.9 C.m	27.50 Gr	12.00 Gr	19.04 Gr	3.4 Gr	8.8 Gr	
厚岸沖	昭和11年 6月29日	68.1 C.m	54.0 C.m	62.3 C.m	33.00 Gr	15.00 Gr	23.51 Gr	—	—	

尙得茂別に在る東擇捉漁業株式会社では動力源の一部に

水車を運轉して居る。此用水は得茂別の川水を引用して居り排水は工場下の海岸に流出して居る附近には工場の排棄物が堆積腐敗し之が波浪により攪亂され海水は泥状を呈し悪臭を發して居る。例年八月上旬になると紅鱒は此の汚水中を游泳し水車の排水を求めて遡上せんとして蝟集する。漁夫は釣を以てひつけ毎日數十尾を捕獲し戯れて居る。近傍には小河川が多數あるが、全々遡上を見ない。唯本流と之より引用して居る工場排水を得茂別川の川水であることを識別して遡上することは洄歸の一証明資料と思考される。半田芳男氏は是れと類似の例を支笏湖の姫鱒について述べられて居る。

四、結論

既述の如く鮭も搖藍の河川が湖沼に注いで居る時は、紅鱒の如く鱗層の核心部に淡水停滯の徴候を現すものと考えられる。太平洋時不知末期のもの、内に前記の徴候を現すものを發見し、之が解決のため年崩川及網走川産のものを調査した結果目的の一部が達せられた。年崩川のもの採集時期の關係上鱗層に欠刻を生じ傾向を知る程度であつたが、網走川のものは七六・〇%が淡水滯泳の徴候を有するものであつた。換言すれば産卵期に至り搖藍の地を求めて遡上して來た即ち洄歸して來たと云う事が出来よう。擇捉島東岸の得茂別湖、年崩湖に遡上する紅鱒は魚体の

大きさが甚だしく異り前者は五年生のB型が大部分を占め後者は四年生のB型が大部分を占めて居る僅か三四哩を隔てた兩湖のものが斯くも明に相異を現すことは自己の搖籃の地を認識して居るものと云えよう。

又得茂別湖に遡上する紅鱒は本流と東擇捉漁業株式會社

木崎鱒 (Oncorhynchus mason Brevoort)

幼魚の鱗發生に就いて

函館高等水産學校 中 村 一 雄

鱒類の鱗に就ての研究は魚の生態學に裨益する處が甚だ大きい。而して鱗の發生當初に就て詳しい知識を得る事は鱒を研究する基礎となるべき重要な事項である。著者は木崎鱒幼魚の天然餌料研究の爲め採集せし材料に就て鱒の發生時期發生状態並に環境等との關係に就ても多少知り得たが材料に不備の點あり、意に満たざる處多々あれど此處に記して讀者の御教示を仰ぐ次第である。

終に御指導を賜りたる水産試験場上田分場畑久三技手並に貴重なる文獻の貸與を賜りたる函館高水渡邊教授に深謝の意を表す。

材料の採集 材料の採集は元水産試験場木崎分場養魚池

に二枚の鱗を認めたのみで、以下の大いさには何れも鱗を認め得なかつた。

この鱗は略圓形で發生初期らしく直徑0.2~0.4mm、就中大部分は0.3mmであり、何れも鱗上には不規則な網目狀の細線があり、未だ完全なるCirculiは形成されず、ただ僅に不規則な細線を認め得たのみである(圖一)又休長34mmのものに鱗らしきもの一枚を見たが明瞭でなかつた

四月十八日 湧水河川で採集した木崎鱒三十尾は休長29~24mmで43mmのもの二尾に鱗を認めたのみで、他は何れも鱒の發生が無かつた。鱒の形は圓形又は稍々楕圓形で直徑0.3~0.4mmで何れも鱒上には不規則な網目狀細線があり、中には鱒の輪郭と同心圓的に不完全、且つ不明瞭にCirculiが現れ始めたものもあり(圖二)又既に二本も形成せらるもあり(圖三)

四月十九日 元木崎分場飼育池より取揚げた木崎鱒五十尾は休長34~24mmの大きさで、此の材料中には未だ鱒の發生が見られなかつた。

五月十八日 排水河川で採集せる十七尾に就て見るに、休長49~32mmで何れも鱒が形成され休長49mmのもの、鱒は直徑0.6~0.8mmで就中0.7mmが大部分を占め、鱒上に三―四本の圓形なるCirculiを生じ、多くは四本目のCirculiの形成途中にあつた(圖四)直徑0.7mmの鱒中には鱒の一部分に三本のCirculiが僅に形成され始めたもの

が得茂別川より引用した排水にのみ(附近には工場の排棄物が堆積腐敗し之が波浪に攪亂され泥狀を呈し惡臭を發して居る)遡上せぬことも搖籃の地を認識して居る現象と信するものである。以上二、三の鮭鱒類の河歸に關する事項を記し参考に供する次第である。(昭和二二・二二・二三)

の排水が流入する小河川(市0.5日内外)分場附近の湧水河川(市0.5日内外)及び分場飼育池より得たものである。排水河川と湧水河川の材料は此等河川が數百米下流で木崎湖に流入せる爲め木崎湖より木崎湖親魚が遡上し天然産卵せしものであり、孵化した時期は産卵期より推して十一月、十二月頃と思はる。飼育池の材料は木崎鱒産木崎鱒親魚より採卵飼育せるものである。此等實驗魚は採集後直ちに10%フォルマリン液に浸漬し後全体側より「メス」で鱒を擦り取り檢鏡調査した。

實驗結果 四月十七日 排水河川で採集した木崎鱒七十尾は休長41~25mmで47mmのもの二十數枚、49mmのもの

觀察された(圖五)休長28~38mmの木崎鱒は鱒の直徑0.3~0.6mmで就中0.5mmが大部分であり、Circuliは〇~三本で稀に四本のものありしが、多くは二―三本であつた。(圖六、七)休長37mmの鱒の直徑は0.3~0.4mmにしてCirculiは〇―二本まで現れて居たが、二本目の形成途上にあるのが最も多かつた(圖八)次に休長36~32mmのものは鱒の直徑0.2~0.4mmであり、Circuliは〇―二本で多くは一本である。休長33mmのものは未だCirculiを生ぜず、不規則な細線のみ認められた(圖九)

五月十八日の材料は四月取揚げたと同じ飼育池より大形(休長39~31mm)のものを選擇して取揚げた二十四尾であり、休長39mmの鱒の直徑は0.3~0.4mmでそれに一本の細きCirculisの如きものが漸く認められ(圖十)その他の内休長34mmのものが鱒の直徑0.2~0.4mmで〇―二本のCirculiを形成したのみで他は鱒僅少で直徑0.3~0.4mmでCirculusの形成初期と思はれる斷續的な細線一―二本とその間に不規則な細線があるのみであつた(圖十一)中には全くCirculiを認め得ぬ鱒もあつた。休長33~31mmのものは何れも一、二枚の鱒を見出したに過ぎない。又31mmのもの、鱒の直徑は0.1mmで未だCirculiが現れず、細線のみでこれが觀察し得た最小の鱒であつた。

總括 以上の實驗結果を第一表に依り觀るに、魚体に鱒を生ずる大きさは四月採集の木崎鱒は休長33mm以上に、五

月のそれは体長31mm以上である。これは孵化後日数が経過するに従ひ鱗を生ずる魚体の大きさが次第に小形になつたと云う事を物語つて居る。

形成當時の鱗の形は圓形或は稍々楕圓形で Circuli の中心は多少被覆部へ片寄つて居り、その大きさは直径1.2~0.4mmが大部分で、稀に0.1mmとか0.8と云うものがある。而して魚体の大小に伴ひ鱗にも幾分大小の差を生じて居た。

Circuli形成當時の鱗は不規則な細線があり、中にはそれが網目状をなして居るものもあり、それより稍々進んだのを見ると、鱗に断続的な極く不明瞭の Circuli が現れ、それが次第に連続して遂に完全なる Circuli を形成する。斯様に鱗上に三本内外まで環状に Circuli を形成し鱗の外方に作るものでない。此の事は Circuli を生じた鱗と、未だ生じない鱗と同大である事よりも裏書される。それ以後の

Circuli は鱗の外方に形成される如し。

環境に依る鱗の相違は自然産のものは池中飼育のものに比し著しく Circuli が明瞭であり、殊に五月排水河川で採集した木崎鱒の鱗は Circuli が明瞭に形成されて居た。

文 獻

1. Gilbert, C.H. 1913: Age at maturity of the Pacific coast salmon of the genus *Oncorhynchus*.
2. Bull, Bur, Fish.
3. Malloch, P.D. 1910: Life-history and habits of the Salmon, sea-trout, trout and other freshwater fish.
4. 幸内慎治郎 昭和八年 鮭稚魚の鱗の研究、北海道廳水産試験場報告第一冊。

(昭和十九年二月十八日投稿)

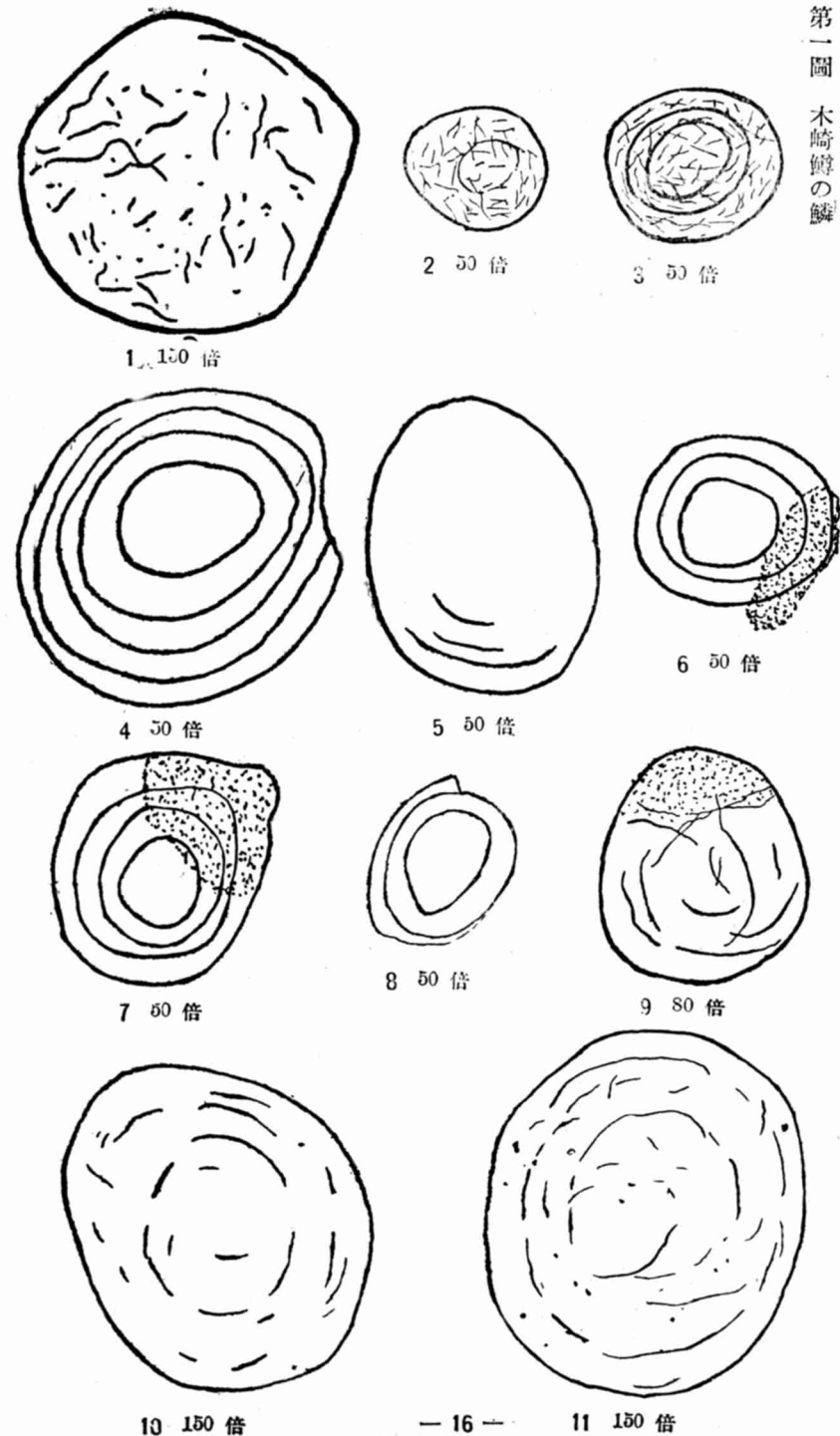
第一表

魚種	木崎鱒	木崎鱒	木崎鱒	木崎鱒	木崎鱒	木崎鱒	木崎鱒
採集場所	排水河川	排水河川	排水河川	飼育地	飼育地	飼育地	飼育地
採集月日	4月17日	5月18日	4月18日	4月19日	5月18日		
採集尾数	70尾	17尾	30尾	50尾	24尾		
鱗の大きさ	Circuli数	鱗の大きさ	Circuli数	鱗の大きさ	Circuli数	鱗の大きさ	Circuli数
mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm	
49		0.6~0.8	3.9				
48							

体

47	0.2~0.3	0							
46		0.4	0						
45									
44									
43				0.4~0.5 0.4~0.6	3 2~2.5	0.3~0.4 0.3~0.4	出来初め 0~2		
42				0.4~0.5 0.4~0.6	2 3	無し			
41				0.4~0.5	2~3				
40				0.4~0.5	2.5				
39				0.3~0.5 0.3~0.4	2~3 2	無し		0.3~0.4	1
38	無し			0.4~0.5	2.5~3				
37				0.3~0.4	1.5				
36				0.3~0.4 0.2~0.4	1 1			0.3	0~1
35				0.2~0.4	1			0.2~0.3	0~1
34	?			0.3~0.4	1			0.2~0.3 0.3~0.4	2 0~2
33	無し			0.2~0.4	0			0.3	1
32				0.2~0.3	1			0.3 0.4	0 1.5
31								0.1	0
30								無し	
29									

長



揚子江流域の淡水魚に就いて

北海道鮭鱒 並 木 延 郎
 養殖水産組合

華中水産株式會社が南京の玄武湖に於て淡水魚族の養殖事業を實施するから來ないかと言ふ事で、私が中華民國に行つたのは昭和十四年春五月の事であつた。

其れから終戦後、昭和二十一年の春に上海を引揚げるまで約七ヶ年間華中水産株式會社員として養魚場、冷凍工場魚市場等の現場に勤務して居たのであるが、其の間私は中支那の淡水魚類に就いて非常に興味を持つて居たので色々見もし調べもした。

揚子江流域に産する鮭鱒魚族は、只一種(後に揚げた虎魚)を産するのみで、従つて本誌との關係が薄い様に思はれるが、何かの参考になればと言ふ意味で茲に特異の數種と重要食用魚類とを紹介する事とした。

私が折角調べた資料は引揚る時持参を許されないので、手許にないため不備或は誤謬の點も多いことと思はるゝが其の點は御叱聲を願ふこととする。

中華民國は江、河、クリーク、湖、州等が多くあつて、夫の水量は世界第一と稱されて居るのであるから、夫の水域に棲む淡水魚の種類及數量は之れ又夥しい數に上り、こ

れが中國(中華民國の略)の重要な食糧資源となつて居り米、麥等と共に中國民衆とは切つても切り離すことが出来ない重要な經濟問題ともなつて居るのである。

世界中で一番種類も産額も多く、しかも魚體の大型な淡水魚類が居るのは何と言つてもアジア大陸、主として中國の河水に一番多いのであるが、これは魚類の生活條件が適して居ること就中水が豊富な爲めである。北支那は中國の乾燥地帯と言はれて居るが、それさへも日本の三倍の水流の分布を有して居る。まして長江(揚子江)流域である中支那は一番多く江、河、クリーク、湖、沼が網の目の様になつて居る。南支那に行くとも中支那よりは稍少く存するが水流の分布は縦横に錯綜して居る。極言すれば廣東より北京までクリークを傳つて舟行することが出来るほど水系が發達して居る。

此の水が多いこと、氣候が淡水魚の繁殖に適して居ること、水の性質が魚の成育に適し餌となる微生物及弱小動物が非常に多く繁殖して居ること。又川底が魚の好む所有性質が集つて居る等々の各般の條件が結集して世界最大の淡水

生物殊に魚類の繁殖を來した譯である。特に中國で魚の密集して居るところは長江の流域である。

中國の魚類の數量はどれほどかは統計がないから判然としないが、恐らく淡水魚と海産魚類と合すれば世界三大漁場の一つと言はれた嘗ての日本の内陸水面、沿岸及遠洋漁業で捕つた漁獲高を合しても問題にならぬ程巨額に達するものと思ふ。

中國全體の魚の種類はどれだけあるかと言うと、此れ又十分に研究されて居ないので判明しないが、兎に角判明したもので大體四百餘種類と言はれて居る。又其の内揚子江だけで二百八、九十種類を記録されて居るが、元の日本に於て樺太から臺灣までの全範圍の淡水魚類の百二、三十種類から比べると問題ではない。

魚體の大きさに限度はあるが、鯉では六、七尺に達するものも普通に見られ、象魚(日本名ヘラチョウザメ)では長江特有のもので此れなどは私が見たものでも十二、三尺はあつた。又鯰(ナマス)なども八尺ぐらゐのものもそう珍らしいものではない。

前述の如く中國では米、麥等の主食に次いで魚類は重要な食糧資源であり、民衆とは切つても切れないものであるが、海産魚は餘り民衆には親しみはなく、海岸地帯の人々のみ賞味されて居る。

中支那では上海、寧波附近と言う様な海に面した處ではい。此の種は西部支那大陸産としては初めてのもので、古來詩文に名の高い丙穴魚或は嘉魚は此れであると言われて居るが判然としなく。

此の魚は元東大教授故岸上謙吉理學博士が六十二才の老艦を提げて昭和四年、遙々四川省の奥まで淡水魚類の研究調査に赴かれた時、成都上流岷江灌縣附近で発見したものである。

岸上博士は、此の虎魚を発見された翌日(十一月二十二日)成都で逝去されたのである。此の記念すべき虎魚の標本は成都の協西大學に保存されて居ると言うことである。

二、象魚 *Psephurus Gladius (martens)*
又の名を鱒鱈、白鱒、鮪(古名)と言ひ、日本名を「ヘラチョウザメ」と言うて居る。

大きさは六尺以上に達し吻がヘラ状をなして、全體長の三分の一が吻の長さで眼が極めて小さく、無鱗で灰白色の圓筒狀の軟骨魚である。吻が長く眼が小さいので象魚との名が附いたのであろう。揚子江の一部の局部のみに棲息する残存型の魚で、此れに似て居る種族は北米のミシシッピ河に棲息して居るスプーンビル・スターチオンが此れである。

昭和十四年九月に私が南京の魚市場に揚つたもの二尾を見たが、一尾は十二、三尺位いで外の一尾は三尺餘のものであつた。

海産魚類を賞味するが、蘇州、無錫、南京と言う様な奥地に這入ると最早海産魚類より淡水魚の方が高價であるにもかゝらず、より多く賞味されるのである。

此れは種々理由があるだろうが、私は海産魚類が量と輸送の關係で中國民衆に馴染まれない爲めであるかと思ふ。しかし中國人では経験者は海産魚は不味とは言はない。寧ろ美味であるさへ言うて居る。其の一例として私が南京の冷凍工場に居た時の事で、時の政府の要人に正月の贈物に青魚(鯉科)のもので鯉と鱒とのアイノコの様な魚で、日本にも内地では移植されて現在養魚されて居る。此の魚は中國では正月の贈物に使用され特に北支那では青魚が無くては年が越せないと言われ居る。即ち吾等の鯉の鮮の新巻の如きものである)を贈ろうと思つたが、偶々上海から眞鯛が入荷したので、どちらの魚が良いか問合せて見た處眞鯛が美味だからそれを貰らうと言われた。そんな譯で決して味覺が合はない譯ではなく、馴染が薄いと言うのが原因と認められる。

以下各魚種に就いて述べる。

虎魚 *Hucho Elsekeri Kimura*

又の名を猫魚とも言うて居る。

大きさは一尺アユに類似のものであつて、四川省岷江の上流の山間の溪流に産する。中國本土にては鮭科としては河北省、山東省、福建省の一部にアユを産するも他に例がない。

食用に供されると言はれて居るが、私は機會がなくて未だ食べた事が無い。其の産額は漸次減少して居る。

三、黃鱒魚 *Acipenser sinensis Gray*

又の名を著甲、黃鱒、鱈魚と言ひ、日本名を「シナチョウザメ」と言うて居る。日本に産する「チョウザメ」とは少しく異つて居る。

大きさは六尺以上に達し食用に供され、揚子江の上中下流に多く獲れ普通には三尺前後のものが多い。肉は美味で私は上海魚市場に揚つたものをスキヤキと味噌漬にして食べたが非常に脂肪が有つて美味であつた。しかし支那料理にしては食べた事が無い。燻製品が有名で珍味である。分布は厦門以北の中國の沿岸、揚子江流域、朝鮮等である。

四、鱒魚 *Hilsa roeyii (Richardson)*

又の名を鱒魚、三鱒魚(廣東)箭魚(寧波)と言ひ中國に居る日本人は「ジギョ」と稱して居る。此の魚は大きさは四尺位に達し鰭科のもので、海から産卵の爲め大河に遡上する。其の洄游は四月頃より始まり、南方から漸次北上する。五月、六月揚子江に現れる。此の通り限られた時期のみ現れると言うので鱒魚の名が出来たのであると言はれて居る。

揚子江に於ては鎮江附近にて獲れたものが最佳品とされ南京、江陰、蕪湖のものが此れに次ぐと言はれて居る。非常に美味で又珍重なものとして居る。上海は勿論南京、

鎮江と言う様な産地に於てすら走りものは他の魚價よりも數等高價である。料理は蒸物にして食べると非常に美味で我々の家庭料理としては、蒸した物に酢醬油に生薑を添へて喰べると頬ツベたが落ちそうである。

此の魚は鱗の中のアマ皮が美味であるので。蘇東坡の詩の惜鱗魚と言うのが此れである。故に此の魚だけは鱗を取らずに料理するのである。五月頃になると上海の街の各料理屋の前には鱈魚上市と赤い紙に書いた廣告が店頭に貼り出されると、美味求真の市民は競ふて料理屋に行く。又友人に會へば鱈魚を喰べたかと話柄とする程である。鱈魚上市とは鱈魚料理が出来ると言う事である。此の魚は非常に珍重される魚で、昔鱈魚の走りは皇帝に献上して皇帝が喰べた後でなければ人民が喰べる事が出来なかつたと言う程の例令が遺つてゐる位である。

餘談ではあるが私が中國に行つた當初、事情が判らないので失策をした事がある。我々の如き魚屋は此れで一儲けをしようと言うので冷凍にして貯藏した。中國人は此の位珍重するのであるから、時期外れに市場に出せば大いに儲かると思つた。どつこいそうは問屋が卸さず、時期はずれものはさつぱり喜ばないので見込達の當外れをやつたのである。此れは中國人が封建的であり、保守的であると言う事の一つの例でもある。此れと同じ様な事がもう一つある事變前に北海道廳の上海事務所で、中國に鹽藏鱈の販路を

鱈魚を出したと言はれてゐる「桃花流水鱈魚肥」とは前者のことを言つたものであつて、春の鱈魚はまつたく美味である。料理方法は色々あるが一番美味なのは醋溜紅燒（日本ではよく鯉を使用する料理で、一尾のまゝ油で揚げて甘酢のあんかけにしたもの）である。宴會では此の魚の料理が出るとお開きとなつて、他に私用のあるものは退席して主客に對して失禮にならないとされてゐる。その位の宴會の献立中の花形である。先づ中國料理では鱈魚の一尾のまゝのものゝ鴨の丸燒のものが出る料理は最上級の料理である。上海で米國人は「マングリンフイツシュ」と稱し、西洋料理には必ず鱈魚のフライを出す。日本人は長江鮑と稱して賞味し人に依つては「タイ」や「ニヘ」の刺身よりも美味だと言われている。中國の淡水魚は寄生虫が多くて生食すると之れに胃されるので中國人は生食しない。生で思いだしたが生水も殆んど飲まない。水質が悪いからだ。一番良い水質は揚子江の表面の水だと同仁會の防疫班の人が言つてゐた。南京の街の中には處々井戸があるが、やはり防疫班の調査に依ると殆んど大腸菌が入つて居るとの事である。であるから苦力や車天と言えども生水を飲まない必ずお茶を飲む。街の通りには大きな藥罐と湯呑を持つて勞働者相手のお茶賣りが必ず居る。遂に横道にそれたが水も魚も生では殆んど飲みもしなければ喰べもしない。其れは科的學に基礎を置いたものではなく、永年の經驗に依る

開拓すべく大いに宣傳した處、幸ひ中國人の嗜好的的好評を博しどん／＼賣れた。其の後鱈の漁獲が減つたので鱈のかわりに鱈も鱈も同じ様なものだから、鱈も好評を得るだろうと言うので賣り出した處さつぱり賣れない。此れは中國人が封建的と言うか、保守的と言うか、新しいものには飛付かない。しかし飛付いたら離れない性質がある。其の後鱈も賣れる様になつたが、其の影響を受けて大羽のものも好んで居た。鱈魚の分布は中國全沿岸及揚子江中下流、錢塘江、珠江等大河の下流等である。

五、鱈魚 *Siniperca chuatsi* (Basilewsky)

又の名を桂魚、石桂魚、花鱈魚、貴魚とも言い、日本名を「ケツギョ・ケイギョ」と言つてゐる。日本には棲息しない種類である「カワメバル」に類する魚で、大きき二尺五寸に達し体の上は橄欖黄綠色で下部は淡色である。体に黒褐色の斑點があり、吻より背部にかけて暗褐色の條紋がある。側線上の數は一三九枚で其の上部は二六枚、下部は五〇枚である。江、河、湖、沼の流水中に棲息し塘池中には稀である。水中の下層又は夜間に小魚其の他小動物を捕食する。年中捕獲され揚子江の中下流に多いが、上流には少ない。肉はしまつていて小骨が少く非常に美味で本當に川魚の王者である。中國で古來から美味とされ珍重がられる魚に鱈魚と鱈魚とがある。清朝では宴會には必ず

六、刀魚 *Colia setata* Jordan & Seale

又の名を鱈魚、鳳尾魚、鮭魚とも言うてゐる。日本では此の種に極めて類似のものが有明灣に産する。即ち「エツ」(C. *trans* *tas*)である。日本名を「チヨウセンエツ」と稱する。大きき一尺に達し体は側扁して其の尾部が刀の如くになつて居るので其の名がある。全身は銀白色で背鰭は十軟條、尾鰭は百十前後軟條であつて、特異なことは胸鰭の上部の軟條が延長して胸鰭を成して居る。此の種類は元來海産のものであるが、淡水にも産し揚子江、洞庭湖沙市にも漁獲される。中國沿岸で普通に捕獲されるのは此の種である。五月より六月に産卵の爲め崇明島附近に群集する。産額極めて多く鹽乾品となし又油で炒げたものを罐詰にして居る。魚の罐詰としては有名なものである。中國人の家庭料理としては醬油に漬けたものを油炒めすると非常に美味である。分布は朝鮮南沿岸より浙江省以上の沿海及河の中下流等に産する。

七、銀魚 Salanx cuvieri (Cuv. & Val.)

又の名を小膾殘魚、麵條魚、王余魚とも言う。日本名を「シラウオ」と稱する。大体三寸ぐらゐで次に述べる大銀魚より小さい。春四、五月頃湖河の水草間に産卵する。一週間位いで孵化し産卵後は海に降る。洞庭湖、陽湖、沅湖等に産し沅湖のものが有名である。膾殘魚、王余魚の名は博物誌に「吳王江行、食膾有餘、棄於中流化爲魚」とありそれよりこの名が出来たと傳へられている。即ち吳越戦争の時、大湖で吳王が舟遊びをして膾(當時生魚を食べて居た)を食つた時に知らせがあつて越が攻めて来た。それで吳王はこの膾を水中に捨て直ちに戦に出た。ところがこの膾が自然に泳ぎ出した。これがこの魚であると言う傳説がある。この魚は煮ると乳白色になるので麵條魚又は銀魚の名がある。日本でも汁や油で揚げた料理が賞味されるが、やはり中國料理でもお湯や油で炒めて食べるが、又乾製品としても賞味されている。分布は山東省より廣東省の沿岸及河口に産する。

八、大銀魚 Protosalanx hgalcerinus (Abbt)

又の名を膾殘魚、王筋魚と言う。日本名を「チヨウセンシラウオ」と言う。大きさは五寸前後に達し本科中最大のものである。銀魚科のものは元來海産であるが、揚子江等の大江河等淡水中にもよく棲息する。就中太湖は豊産を呈する。春五月に産卵の爲め湖江に遡上し産卵の後は親魚は

に「藏娘」等の餘興あり、一同歡をつくし極めて盛況裡に午後四時終了した。

功勞者芳名 (順序不同)

- 故森脇 幾茂 (元千歳鮭鱒孵化場長 遺族 山口縣岩國町五軒谷森脇くに子)
- 小池 仁郎 (元根室外四郡水産組合長 遺族 東京都足立区千住大川町五八小池密蔵)
- 藤井 顯 (元千歳鮭鱒孵化場長 遺族 千歳郡千歳町渡邊郡郎方)
- 藤坂 良吉 (元網走外二郡鮭鱒養殖水産組合長 遺族 網走市南六條西一丁目野坂ラウ)
- 藤村 信吉 (元千歳鮭鱒孵化場長 遺族 東京都吉祥寺山都小路藤村信次)
- 羽生 銀藏 (元根室外四郡水産組合標津津孵化場主任 遺族 標津郡標津村宇標津羽生良蔵)
- 鈴木 幾太郎 (元根室外四郡水産組合職員 遺族 札幌市)
- 井筒 宇三郎 (元網走外二郡鮭鱒養殖水産組合長 遺族 網走市五條東一丁目)
- 大西 眞平 (元紋別鮭鱒養殖水産組合長 遺族 紋別郡紋別町山手通り)
- 齋藤 兵太郎 (元十勝外四郡鮭鱒養殖水産組合長 遺族 十勝郡大津村厚内)
- 菊地 覺助 (元千歳鮭鱒孵化場長 現小樽水産學校教授 遺族 札幌市南十六條西十丁目)
- 徳久 三種 (元農林省水産局増殖係 現全國昆布加工業統制組合長 東京都浅草區浅草橋一丁目)
- 半田 芳男 (元北海道鮭鱒孵化場長 現北海道鮭鱒養殖水産組合長 札幌市南十四條西一丁目)

海に降るのである。其の利用方法は前巻の銀魚と同様である。分布は朝鮮南沿岸から福建省以北の沿海及大河河口に産する。(二二、七、一〇) 續く

彙報

北海道水産孵化場移廳

十周年記念式典の概況

本道鮭鱒其の他重要漁業の資源維持の本部である北海道水産孵化場が、昭和十二年千歳郡千歳村より現在の札幌市外中の島に移廳されてから、昨昭和二十二年を以て滿十年となつたので、同年六月十二日同場會議室に於て來賓北海道知事代理總務部長外朝野の名士百二十九名参列のもとに移廳十周年記念式典を舉行された。

先づ定刻午前十時開式宣言の後野田場長の式辭あり、次で北海道知事代理總務部長の挨拶ありて後、來賓として半田本組合長の祝辭並に各方面より寄せられたる祝電披露あり、次で多年本道鮭鱒養殖孵化事業に貢献された左記十五名の功勞者に對し表彰狀の授與ありて正午閉式、引續き同場主催本組合其の他關係団体並に有志の協賛による祝賀會に移り札幌藝能俱樂部幹部級總出演の長唄「四季の壽」並

- 飛鳥 貫治 (元水試供室支場長 現小樽水産學校長 札幌市南十四條西十一丁目)
- 内海重左衛門 (元西別鮭鱒孵化場長 現北海道鮭鱒養殖水産組合職員 札幌市北十一條東五丁目)

野田場長の式辭

本日茲に當場移廳十周年記念式典を舉ぐるに當りまして、官民諸賢多數の御賓臨を辱う致しました事は當場として洵に光榮と存する處であります。

顧みますに、本道に於ける鮭鱒孵化事業は六十年の古い歴史を有するのでありまして、明治二十一年北海道廳が千歳町大字島崎郷に千歳孵化場を創設し、由來人工孵化事業の基礎を確立した事に始まり、爾來鋭意之が研究に當り事業に諸改善を加へたる結果、其の効率顯著なるものあるを認め、人工孵化の効果の偉大なるを認識せしむるに至つたので、民營孵化場は道内各所に設置せられ、大正十五年には官營三箇所、民營四十二ヶ所を算するに至りました。翌昭和二年第二期拓殖計畫の實施せらるゝや、民營事業の助長方策を購ぜられましたので、昭和八年には民營孵化場五十箇所となり、官營孵化場を合せ實に五十八箇所の多量に上り鮭四億一千四十万粒、鱒一億八千万粒の孵化放流設備を擁するに至りましたが、本道拓殖事業の進展に伴い、近代諸産業の急速なる發展は各種の障礙を惹起すると共に、漁業の異常な發達は沿岸に將又沖合に躍進を見るに至り、爲めに河川に遡上する産卵親魚の減少を來し、加うるに民營孵化場相互間の有機的の連絡を缺如するの結果、圓滑なる事業の遂行が出来なかつた事と、他面事業の性質上其の運営は經濟的貧困を招致し事業運営困難なる状況に立ち到りまして、人工孵化事業に一

抹の暗影を枝するに至つたのであります。茲に於いて斯業の公益的性質に鑑み、之を官營に移管統合する可とするの氣運が醸成せられまして、遂に昭和九年三十八箇所、昭和十一年に九箇所の民營孵化場を國に移管することとなり、既設の官營孵化場を併せ北海道鮭鱒孵化場なる機構の下に統一せられたのであります。而して本場を千歳孵化場に置き、其の統制本部としたのであります。千歳孵化場は地理的關係上地方の支場事業場との連結並に道廳其他諸官衙との連絡上にも不便であり、所期の目的を達成する事洵に困難であつたので、昭和十一年十二月二十一日本場を當中ノ島新廳舎に移轉し昭和十二年六月に移廳を完了致しました次第で、今回十周年を迎ふるに至つたのであります。

而して北海道鮭鱒孵化場の名稱を現在の北海道水産孵化場と改稱するに至つた所似のものは、昭和十六年度に於いて國費豫算の編成の都合により國費より地方費に移管せられ、同時に從來施行した鮭鱒孵化事業の外に新に銀人工孵化事業、淡水増殖事業等を加へ實施するに至つたもので、現在に於ては更に鱒、鯉、公魚等の孵化事業をも加へて其の規模を益々擴大強化せられつゝありますが、終戦により擇捉、國後兩島に於ける鮭鱒の一大資源地と、資源の培養場とを失ひ從來當場に於いて實施せる鮭四億八千万粒、鱒一億五千万粒の約三分の一の孵化資源を縮小するに至つたのであります。本道鮭鱒資源の維持増進上一大痛手といはざるを得ないのであります。随ひまして之等の減少分を本道内末利用河川の活用並に既設孵化場の整備擴充等に力を盡し急速に挽回するの要を認めため、現在の地方費を以つては本事業の特質上事業の完壁を期し難く、國費を以つて實施し其の經營の安定と効果の確保を期すべく努めた結果、鮭

北海道鮭鱒養殖水産組合長の祝辭

本日茲に北海道水産孵化場移廳十周年記念祝典を舉行せらるゝに當り、祝詞を述ぶる機會を得ましたことは、私の最も光榮とし且つ欣びとする處であります。

惟うに本道に於ける水産孵化事業は、明治十年に創設せられた鮭鱒類の人工孵化事業を以つて嚆矢とし、爾來七十有餘年間其の技術の向上に、其の經營の改善に不斷の研鑽努力を拂われて今日の盛況を示すに至つたのであります。最近孵化技術の進歩は從來至難とされた鱒、鯉、鯔等の淡水魚類の人工孵化事業をも實施するに至りましたことは洵に驚異に値する處でありまして、我が國水産増殖史上特筆すべきことと申さねばなりません。

然しながら顧つて本道の水産孵化事業が今日世界に誇り得る成果を収むるに至つた眞の要因は、歴代官民間關係當事者の緊密なる協力と幾多の犠牲を拂はれた賜でありまして、其の顯著なる功績に對しては衷心より感謝と尊敬の念を捧ぐるものであります。

今や我が國は終戦により喪失した尠大なる水産資源の補填を企圖する爲め朝野を擧げて苦心をして居るのであります。之が對策は

鮭鱒孵化事業は一應國費に計上せられたのであります。が、開發其の他の關係で國費全額補助の形に於いて施行することになつたのであります。

然し戦時戦後に於ける豫算、資材、勞務等の隘路に依り孵化設備の修理擴充が出来なかつたので、設備の喪失腐朽に依つて事業に多大の支障を來しているものが尠くないのであります。併し現場各職員は乏しきに堪え總ゆる創意と工夫を凝して事業の完遂に邁進している次第であります。

惟うに凡そ如何なる産業に於ても、生産と其の資源の培養とは並行して行はるべきである事は今更贅言を要せざる所であつて、廣大にして神祕なる大自然を對象とする水産業に於ても天然蓄積のみ依存して鱒魚漁獲を事とするに於ては、忽ち資源の枯竭を來し漁業の衰頹を見る事は自明の理であります。然も今や開拓の進展は河川並に沿海の自然的實相に變化を與へて止まざる状態下にあることは論を俟たざる處でありまして、人智と人力とを傾倒し以つて資源の確保を圖る事こそ最も必要と存する次第であります。當場職員は一致協力其の目的達成の爲めに努力しつゝありますが、獨り關係職員のみには完壁を期し難いので、大方各位の眞摯なる御指導御鞭撻と格別なる御援助を冀う次第であります。

聊か燕辭を述べて式辭と致します。

昭和二十二年六月十二日

北海道水産孵化場長
野 田 信 俊

何と申しても本道に於ける鮭鱒其の他重要魚類の人工孵化事業を畫期的に擴大強化して、之が資源の培養を圖る以外途のないことは多首を要せぬ處であると共に、之が實施は一日の偷安をも許さば國庫の事項であると信するものであります。

かゝる時機に當り、本道水産孵化事業經營の總本山とも申すべき本水産孵化場が茲に移廳十周年記念式典を擧げられましたことは、洵に機宜に適した施設であり、意義一入深いものがありと存せられ衷心より御祝ひ申上ぐるものであります。

冀くは關係各位には一段覺悟を新にして、更に研鑽努力を致し將來益々發展を遂げられ以つて傳統ある本道水産孵化事業の國家的重大使命の達成に邁進せられ、祖國再建の大業に御盡碎あらんことを念願して己みません。

聊か所懐の一端を述べて祝詞とする次第であります。

昭和二十二年六月十二日

北海道鮭鱒養殖水産組合
組合長 半 田 芳 男

(一) 昭和十八年度鮭親魚捕獲採卵成績表

場名	捕獲尾數(尾)		計	使用親魚數(尾)		計	採卵數(粒)
	雄	雌		雄	雌		
北見別見	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
通里	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
斜走	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
網走	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
興内	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
幌内	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
北見支場管内計	10,000	10,000	20,000	10,000	10,000	20,000	1,000,000
十勝支場管内計	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
尾幌	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
波島	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
厚澤	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
知内	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
利内	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
渡島支場管内計	10,000	10,000	20,000	10,000	10,000	20,000	1,000,000
留捉	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
留別	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
老門	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
羅白	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
別飛	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
當飛	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
比真	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000

場名	捕獲尾數(尾)		計	使用親魚數(尾)		計	採卵數(粒)
	雄	雌		雄	雌		
千歲	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
尻別	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
朱太	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
敷生	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
勇拂	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
染退	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
三石	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
元川	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
幌川	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
天鹽	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
德志	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
本場管内計	10,000	10,000	20,000	10,000	10,000	20,000	1,000,000
虹別	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
風連	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
標津	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
伊仁	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
伊茶	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
目別	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	100,000
虹別支場管内計	10,000	10,000	20,000	10,000	10,000	20,000	1,000,000

場名	採卵數(粒)	雄計	雌計	雄親魚數	雌親魚數	計	雄尾數	雌尾數	捕獲計(尾)
紅別	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
鳳蓮	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
標津	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
伊茶	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
燕梨	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
日別	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
虹別	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
北見	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
函別	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
斜里	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
網走	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
興部	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
幌內	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
北見	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
十勝	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
尾路	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
釧路	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
雪裡	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
十勝	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
渡島	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
厚澤	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
知內	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
利別	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
渡島	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000

場名	採卵數(粒)	雄計	雌計	雄親魚數	雌親魚數	計	雄尾數	雌尾數	捕獲計(尾)
本場	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
頓別	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
德志	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
天別	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
幌別	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
元川	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
三石	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
染退	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
勇拂	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
敷生	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
朱太	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
尻別	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
千歲	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000
本場	1,000,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000

(三) 昭和十九年度鮭捕獲採卵成績表

前年度計	本年計	合計(採卵、採太)	溫根一沼	國後支場管内計
1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000	1,000
1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000	1,000
1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000	1,000

場名	採卵數(粒)	雄計	雌計	使用親魚數(尾)	計	雄尾數	雌尾數	捕獲尾數(尾)
虹別	1,200,000	1,200,000	7,600	7,600	1,207,600	1,200,000	7,600	1,207,600
鳳	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
標津	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
伊仁	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
伊茶	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
目梨	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
當幌	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
虹別支場管内計	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
北見	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
湧別	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
斜里	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
網走	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
藻琴	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
興内	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
幌内	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
北見支場管内計	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
十勝	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
十勝支場管内計	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
尾路	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
釧路	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
雪路	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
渡島	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
厚澤	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
知内	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600

場名	採卵數(粒)	雄計	雌計	使用親魚數(尾)	計	雄尾數	雌尾數	捕獲尾數(尾)
本場	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
本場管内計	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
本場	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
千歲	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
尻別	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
朱太	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
勇太	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
敷生	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
三退	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
元川	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
元川	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
天鹽	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
德志	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
暑寒	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
本場管内計	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600

(五) 昭和二十年度鮭親魚捕獲採卵成績表

前年度合計	本年合計	採卵數(粒)	雄計	雌計	使用親魚數(尾)	計	雄尾數	雌尾數	採卵數(粒)
1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600
1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,600	7,600	1,007,600	1,007,600	1,000,000	7,600	1,007,600

場名	捕獲尾數(尾)		使用親魚數		採卵數(粒)
	雌	雄	雌	雄	
本場	1,124	2,960	333	55	1,109
天鹽	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
頓別	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
德志	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
本場管内計	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
千歲	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
數千生	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000

(七) 昭和二十一年度鮭親魚捕獲採卵成績表

合計	捕獲尾數(尾)		使用親魚數		採卵數(粒)
	雌	雄	雌	雄	
北見	1,100	2,960	333	55	1,109
湧別	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
斜里	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
網走	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
興都	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
岩尾	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
北見支場管内計	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
十勝支場管内計	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
十勝支場管内計	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
合計	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000

場名	捕獲尾數(尾)		使用親魚數		採卵數(粒)
	雌	雄	雌	雄	
千歲	1,100	2,960	333	55	1,109
尻太	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
朱太	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
天志	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
德志	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
頓別	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
暑寒	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
本場管内計	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
紅別	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
風津	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
當津	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
富津	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
紅別支場管内計	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
合計	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000

(六) 昭和二十年度鮭親魚捕獲採卵成績表 (櫻鱒、棉太鱒、紅鱒合計表)

合計	捕獲尾數(尾)		使用親魚數		採卵數(粒)
	雌	雄	雌	雄	
利別	1,100	2,960	333	55	1,109
渡島支場管内計	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
合計	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
前年度計(○採種係支)	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000
同年度計(○採種係支)	1,100	1,100	1,100	1,100	1,000

場名	捕獲尾數		計(尾)	使用親魚數		計(尾)	採卵數(粒)
	雄	雌		雄	雌		
天德志鹽	1,500	1,500	3,000	1,500	1,500	3,000	600,000
頓別	500	500	1,000	500	500	1,000	200,000
暮寒別	600	600	1,200	600	600	1,200	240,000
本管管內計	2,600	2,600	5,200	2,600	2,600	5,200	1,040,000

(八) 昭和二十一年度鱈親魚捕獲採卵表

(櫻鱈、樺太鱈、紅鱈合計表)

合計	前年度合計		計	計		計	計
	雄	雌		雄	雌		
鋼路	4,920	4,920	9,840	4,920	4,920	9,840	1,968,000
雪裡	1,770	1,770	3,540	1,770	1,770	3,540	708,000
尾幌	7,920	7,920	15,840	7,920	7,920	15,840	3,168,000
十勝支場管內計	15,610	15,610	31,220	15,610	15,610	31,220	6,244,000
渡島支場管內計	6,610	6,610	13,220	6,610	6,610	13,220	2,644,000
朱太	2,920	2,920	5,840	2,920	2,920	5,840	1,168,000
厚部	1,500	1,500	3,000	1,500	1,500	3,000	600,000
利別	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	400,000
知內	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	400,000
渡島	2,210	2,210	4,420	2,210	2,210	4,420	884,000
合計	33,670	33,670	67,340	33,670	33,670	67,340	13,468,000

勇退	4,920	4,920	9,840	4,920	4,920	9,840	1,968,000
染石	1,770	1,770	3,540	1,770	1,770	3,540	708,000
三浦	7,920	7,920	15,840	7,920	7,920	15,840	3,168,000
元川	15,610	15,610	31,220	15,610	15,610	31,220	6,244,000
幌別	6,610	6,610	13,220	6,610	6,610	13,220	2,644,000
千歲支場管內計	2,920	2,920	5,840	2,920	2,920	5,840	1,168,000
風蓮	1,500	1,500	3,000	1,500	1,500	3,000	600,000
標津	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	400,000
伊仁	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	400,000
伊茶	2,210	2,210	4,420	2,210	2,210	4,420	884,000
當梨	1,500	1,500	3,000	1,500	1,500	3,000	600,000
虹別支場管內計	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	400,000
北見	2,210	2,210	4,420	2,210	2,210	4,420	884,000
湧別	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	400,000
斜里	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	400,000
網走	2,210	2,210	4,420	2,210	2,210	4,420	884,000
藻琴	1,500	1,500	3,000	1,500	1,500	3,000	600,000
興部	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	400,000
幌內	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	400,000
岩尾	2,210	2,210	4,420	2,210	2,210	4,420	884,000
北見支場管內計	1,500	1,500	3,000	1,500	1,500	3,000	600,000
十勝	2,210	2,210	4,420	2,210	2,210	4,420	884,000

前年度合計	合 計	國、支、内	支、内	支、内	支、内	支、内	支、内	支、内	支、内
紅 津 別	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
標 白 仁	400	400	400	400	400	400	400	400	400
羅 白 仁	250	250	250	250	250	250	250	250	250
伊 茶 仁	150	150	150	150	150	150	150	150	150
當 帆 帆	100	100	100	100	100	100	100	100	100
風 帆 帆	70	70	70	70	70	70	70	70	70
虹別支場管内計	3,870	3,870	3,870	3,870	3,870	3,870	3,870	3,870	3,870
北 見 支 場 内 計	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900
斜 里 支 場 内 計	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010
湧 別 支 場 内 計	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010
網 走 支 場 内 計	7,350	7,350	7,350	7,350	7,350	7,350	7,350	7,350	7,350
北見支場管内計	27,350	27,350	27,350	27,350	27,350	27,350	27,350	27,350	27,350
十 勝 支 場 内 計	1,330	1,330	1,330	1,330	1,330	1,330	1,330	1,330	1,330
千 歳 支 場 内 計	400	400	400	400	400	400	400	400	400
朱 太 支 場 内 計	300	300	300	300	300	300	300	300	300
尻 太 支 場 内 計	200	200	200	200	200	200	200	200	200
渡島支場管内計	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500
合 計	115,100	115,100	115,100	115,100	115,100	115,100	115,100	115,100	115,100

趣 味

鮭 の 囁 き

生 佛 生

私達は昭和十七年に十勝川で生れた鮭です。

私達の友達は五年前自動車に乗つて幸震の孵化室や、チロットの孵化室で生れた幸福な者や、私の様に十勝川の上流毛根の小川の湧水で苦勞して生れた天然の者が一才、二才の小さい子供が十勝川を下る時も、大海へ出てからも、種々様々な苦勞と害敵を逃れてアラスカの寒いくく處で落合つたのです。二年も三年も前に来て居た澤山の兄弟が居て、お前達もよくやつて来たかと迎へてくれました。毎年兄や姉は生れ故郷の川へ歸りました。私達も早いものです五年の歳月は過ぎて友達の大群と共に各自の故郷の川へ歸り又卵を生む役目が参りましたので、元氣で北極を旅立つた途中、アザラシの大群に追はれたり、大きな網を逃れて北海道近く迄参りました。石狩さんと根室の沖でお別れして私達は太平洋へ参りました。釧路さんとも別れて之から十勝川の故郷へ歸るのだと思つたら急に嬉しくなります。大きな雄さんが元氣で云うには「之から陸地の方へ入ると澤山網があるから注意しなさい」と。

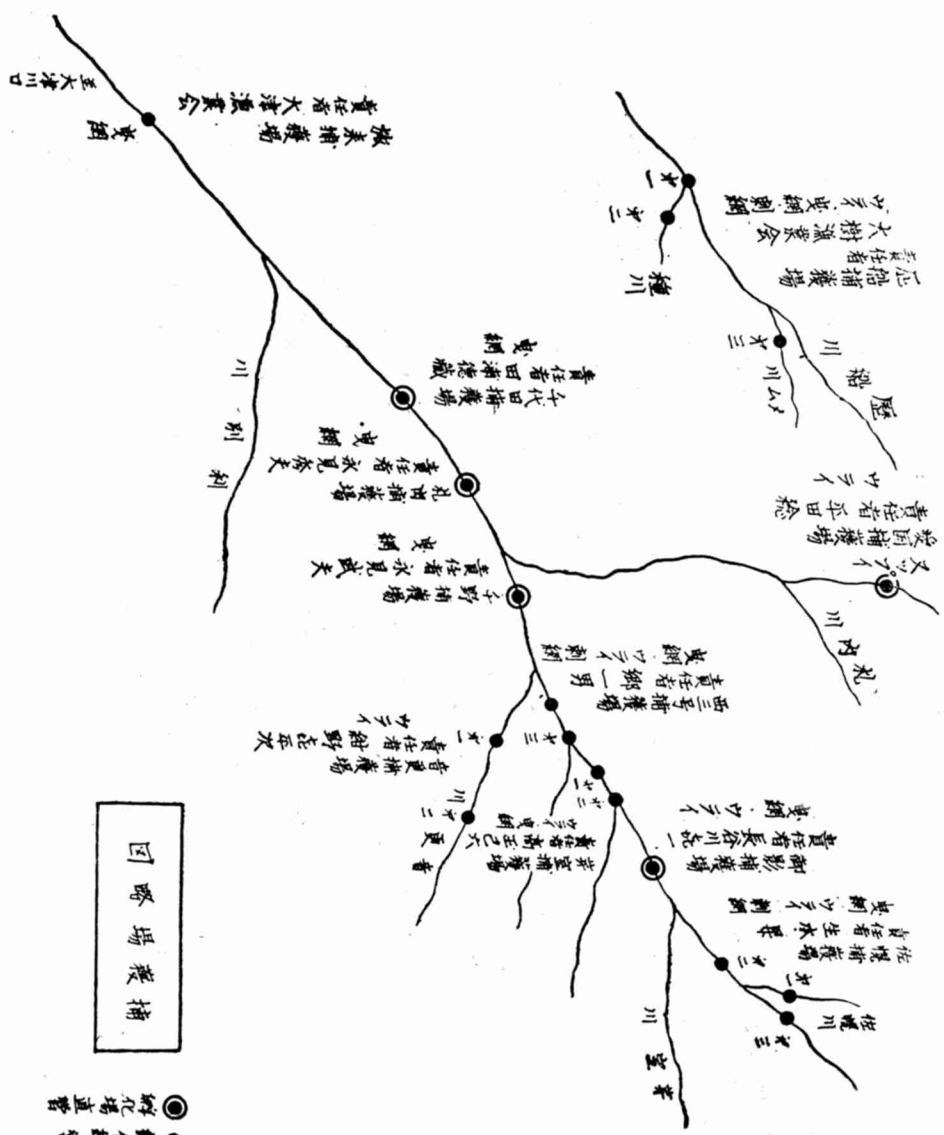
陸地近くへ来て川水を早く呑みたいと思つて居ますと、目前に私達の身体より小さい網が陸から沖へ張つてあります。之だなど皆で沖へくく出て何回もぬけました。又陸地へ入ると又網があります。何度もくく繰返して愈々十勝川の沖へ来ました。誰れやらが「早くくく眞水を呑みたいと思つても、川口は大時化で入る事が出来ないから沖で待つのだ」と云うので、私は皆と又沖へ出ました處、前の方で遊んで居た一群が出る事の出来ない網の中へ入つてしまいました。それで私達は驚いて又沖の方へ出ました。戀しい眞水を早く呑みたいと毎日待つて居ますと、或日幸い風ぎになつた處「皆んな元氣で川に入るのだ」と言はれましたので、嬉しくてくく無我無中で入り、川水を思う存分呑みましたら何となく身体が重くなりました。腹の卵も大きくなつた様です。深い處で一休みをして居ますと、フラくと何だか流れて来ました。そら網がくく皆んなが川の底や岸の深いくく處に逃げましたが、お友達が網に取られて不足になつたので、早く上流のウマイ水の處へ行くのだと

毎日毎夜急いで登りました。網もありました。ヒウ〜と鳴つて来る恐ろしい針も目前を通つた事は何べんもありました。そうして居るうちに愈々水の清い處へ来ました。

五年前流されて通つた十勝川の切替の新川へ入りまして、皆さんは嬉しくて元氣百倍しました處、今度は毎夜釣糸と針の間を抜けて仲間が澤山遊んで居る瀧の様な處へ参りました。之が有名な千代田かと思ひました。然し早く廻らぬと腹が重くてなりません。友達の或る者は、私が腹重くてこの堰堤を越れないのを見て「早く孵化場の人々に卵を取つて欲しい」と云いました。

私は生れ故郷の毛根の湧水が戀しいので廻ろう〜とあせりました。幸い或る大水のあつた夕方愈々廻る事が出来たので嬉しくてたまりません。友達と一緒にさあ早く行つて産床を造つて私達の卵を二千も三千も産むのだと雄さんと共に毎夜々々廻ると、又々川の中に溜場が出来て居ました。こゝまで来て残念だ。何とか廻つてやろうとしても駄目です。友達は腹が痛いからこの邊で産むと云い、雄さんと相談して産床を造り始めました處、其の夜中に友達は見へなくなりました。それは孵化場の人々に取られて親切に卵は採卵器に取り入れ受精をして孵化室のお盆に乗せられ、清水の孵化室で元氣で居るとの事です。私は毛根迄行くのだと友達と話合つて居りますと、其の夜大雨が降つて溜が無くなりましたので、さあ今の中だと皆さんが一緒に廻り

まして愈々苦心して毛根迄来ますと子供の時呑んだ湧水がありましたので友達と産床を造り始めました。身体は疲れ鼻は白く尾は丸坊主になる迄砂や石を堀りました。雄さんと相談して明夜から放卵する事になりました。之で私達の役目も終り五年目には又澤山の子供が大きくなり、澤山歸つて来る様にと祈つて放卵を始めました。ピカリ〜と光るものがあるので、深い處の木の影に雄さんと身をひそめて居りますと、ヒヤリと腹にさわりました。しまつたと思ふ間もなく草むらへ投げ出されました。残念、折角苦勞してこゝまで今澤山産もうとする時死んで了つたのでは、役目を果たすことが出来ないのでバク〜と暴れて居ますと幸いに孵化場の人が私を親切に板の上に載せ、腹を割いて卵を孵化盆に取り入れ受精させてくれました。私の卵を天然で孵化することは出来なかつたのが残念です。然し酷い人が針で取られましたが、親切な孵化場の人の手に依つて卵だけは助かりました。五年目には又澤山の親魚が歸るのを楽しみに魚屋の庭へ放り出されました。(終り)



愈々三平も此度四十有八年間の足を洗つて、官廳の鮭鱒孵化事業と別れを告げた處が、各新聞はやれ鮭鱒養殖の權威者とか、或は孵化事業の至寶とかと書き立てられたので流石の三平も穴でもあればはいり度い位だ。自分の様な我がまゝ者で取る處のない人間が、こんなに永い間皆様に御世話になつた事は實に感謝に堪いない。そこで大きく法螺を吹くなれば、當時の園田長官より今日の岡田長官に至る迄二十有七人の多數の長官に仕えた譯で、この様に永く御世話になるとは當初は少しも考へて居らなかつたが、とう／＼人生の大部分を鮭や鱒と共に暮して來た譯である。

初めて千歳孵化場に御世話になつたのは、明治の三十二年で、其時おぎやと産聲を擧げた小僧が今年四十九才と云う親爺となる譯だから、今更驚かざるを得ない。これで見ると人間と云う動物は使い方さへよければ相當に使用出来るものだ。而し使い方が悪ければ一ケ年は愚か半年も使はれぬものだ。最近よく判つて來た。使う者もよく厭きないで使つたものだが、又使はれるものもよく使はれたもの

半本位の線香を立てられる人もないとも限らぬ。若し一人でもなかつたら其時こそは三平も致方ないから「圭尊院人工孵化居士」の位牌の蔭で諦めて居る事とする。

現職と退職

この世の中に御役人様程、現職に居る時と退職した時と一變するものはあるまい。無論三平なども之れには相當經驗を持つ一人である。要するに其人に頭を下げるのでなく其職に對して頭を下げるのだから一變するのは今更云う迄もなく當然の事である。従つて現職に居る時は上司よりどんな無理な事を云はれても、ごむりご最もと絶対に服従しなければならぬ官僚式や、獨善家が今尙ほあるこんな封建時代の遺物が現在に見る事があるから、未だ／＼民主主義國家再建などは之等を一掃しなければ相當時間が掛る。而し之等の者が一度其の職を離れたが最後、實に憐れなものである。何時迄も自分は偉い御役人様だと思つたら大變な間違で、且つ又之れが今後何年否何十年と續くものでもないから現職の内は彼れはれ振り廻す事は餘りに感心した事とは思はぬ。高山樗牛先生の名文に曰はく「祇園精舎の鐘聲沙羅雙樹。花。色彼れに諸行無常の響きあり。これ盛者必衰の理あり。奢れるもの久しからず。猛き心も遂に滅びるは世の習へなり」と全くこの通りと三平大いに感心せざるを得ない。

こんな事もあつた。或る場長が在職中末年始に本道の

だ。従つて人間は相當に出汁が出る。鯉節にせよ昆布にした處で、一度や二度は味が出るが、後は精々猫の飯にかけれる位が關の山だ。三平などは其點については鯉節や昆布と違ひ、今日迄五十年間も各人が各種の方法にて絞り出したが、未だ／＼多少の出汁が出ると見えるから、猫の飯にかけるとは至らぬ。而しこんな大きな事を云うが、取る年と共に心細くなつて來た。先達中某枝官殿が「お前も死んだら八様に線香の一本位も焚かれる様になれ」と呉れぐれも申されたが、自分の死んだ後は假令線香を焚いて貰つた處で何等の感じがない。それ許りでなく或は風月の甘納豆虎屋の饅頭、千秋庵の羊かん等を澤山供へて貰つた處で敵方ない。出來る事なれば甚だ虫のよい事だが、今の内に少なくとも頂いた方が余程結構だと思ふ。而しこの世の中と云うものは面白いもので、捨てる神様があれば必ず之れと反對に助ける神様もあるから、餘り捨てたものでもあるまい。終戦後の今日我が日本の人口は八千万人とか云う話しだから、其の中にはせめても一人や二人位の人様が一本や

各孵化場の職員が新巻を場長の私宅へ競うて届けられた。其數實に驚くなかれ三百七十餘尾に達したので、流石の場長も一々これを送り返す譯にも行かず、之れには全く持て餘し、そこで友人や職員にも分配するやら或は隣り近所へも上げるやら、一時は殆んど之れには手を擧げた。然るに其翌年不幸にも場長は病氣の爲め逝去されたので、勿論孵化場とは關係がなくなつたが、其の年の年末には遺族の方へ送られて來た新巻は僅に二尾であつた。之れで見ても如何に人情と云うものは變るかと當時考へさせられた。而し之れが今の時代に三百七十餘尾の新巻が來たら、青空市場の計算に見れば一尾五百餘圓と見ても、合計金十八万五千圓となる譯だから、一度だけ場長になれば澤山だ。一生業が出来る。最早や恩給などは問題でない。そこで三平などもこの次ぎは必ず三途の川原の孵化場に行つたら、早速場長になる事に今より夫々運動して居る。處が幸か不幸か、先輩の人々が澤山先きに行つて居られるから相變らず囑託かも知らん。

使う人と使われる人

自分は前にも述べた通り永い間色々な人様に使れて來た且つ又色々な人も使つて來た事もあるが、要するに人に使われるよりは人を使うものの方が餘程面倒なもので、人には誰れでも夫々長所もあれば短所もあるから、其の長所を巧みにとり入れるのが人を使う秘訣ではあるまいか？

これも極く古い三、四十年も以前の話しだが、某水産課長さんの御宅にて女中がない爲め度々課員の人々に頼んで都會より、農村より或は漁村より夫々世話を上げてあげたが、切角女中が来ても永くて二、三ヶ月、短い者は四、五日にてどれもこれも極めた様に親が病氣とかで歸る。其の爲め或る時三平も頼まれたので、早速市内の周旋屋に行つて頼んだ。然るに周旋屋さんでは水産課長の御屋敷なれば誰れも行く人はありませんと断られた。そこで早速他の周旋屋さんに行くと、これも亦課長の官舎なれば駄目々と頭を横に振り全く相手にしてくれぬ事もあつた。之れは一女中さんの事ではあるが、要するに澤山の人を使う中には一人や二人が主人と意見が合わぬから飛び出したとか、或は他の方へ務めたとか云うならば何處にもある例だが、次ぎから次ぎと走馬燈の如く出るのは決してよい事ではあるまい。使う方の話に依れば當人が悪く、到底將來見込がないから出したと得意になつて他の人々に話しをして居るかも知らんが、世間では御氣の毒ながら決してそうは見ない。結局最後には誰れも使われる人がなく、御自分一人で多忙を極める事となり、不止得周旋屋に迄も行く事に依つて初めて目がさめる譯である。故に使われる者はよく其の邊を考へなければとんでもない六十年の不作となるから、誰れでも棚からばた餅でも落つる様な話ばかり聞いて、之れに飛び付く人は世間にも澤山あるから、よく注意が必要

三平は二、三日も係つて漸く出来上り、早速忝しく提出に及ぶと百分數に一、二の相違を見付けると、いきなり「之れは駄目だ」と云うが否や兩手を以て立處に之れを引き裂き、其の上層層に放り込まれた。こんな事はこの人には珍しい事ではなく、場員中當時は誰れでもやられるから、他のハハは一つの笑い事の様にして居る。又或る時は卵抄の作製する事を命ぜられた。之れは誰れでも承知の通り電信線にて骨組を作り、之れにレースを張り付けるもので自分は斯の如き小細工は常に得意とするもので、之れも早速出来上り持参に及ぶと、一寸氣に喰はぬと見るや、いきなり土足を以て蛙を踏み付けた様にペチャンコにされた事もあつた。こんな譯だから場員許りでなく、天下に一人よりのない最愛の令夫人でさへ、顔に繻帯を巻いて紫色になつて居られた事も度々あつた。こんな一見無茶な人の様ではあるが、不思議にも場員は下は給仕、小使さんに至る迄實に主任を神様の様に敬い、主任の命なれば何事に依らず實に水火もいとわず飛び込む位に信頼して居つた。主任も亦部下の爲めなれば寢食を忘れて世話をしてくれるので、實に親の様に思われてあつた。世間では表面のみを至極色々親切にしてくれる上司もあるが、賣名的な親切は却つて駄目なものである。

更に又こんな珍しい主任様も居られた。この主任さんは悪戯にも餘り極端とも思う事が度々あつた。時折り構内を

である。どれ一つお茶でも入れましようか？

歴代場長と三平

三平も今日迄には色々な場長さんに使われて来た。そこで公務上の事は今別に取り立て、書く必要はないが、歴代場長の内の二、三の場長を拾つて其の横顔を述べて次ぎの場長様になる御方の爲めに御参考となれば三平も之れ以上の事はあるまい。

約五十年間も見て来た各場長を思い出せば、夫々特長があるが、結局左記の様な人に使われる事は自分の永い経験により部下として非常な悦びと且つ又幸福であつた。

- 一、太腹にて大局を抑へて他は部下に一任する人
- 二、公務に對し絶対私情私慾をばさまず、自由公平に仕事をさせる人
- 三、部下を信頼し部下も亦場長を絶対信頼する人
- 四、人格高尚表裏なく清廉潔白なる人

そこで三平は今古い二、三の場長の事を述べて見ると、今より凡そ四十五、六年前の千歳孵化場の主任で（當時は場長と云わず）其の主任様は水戸生れの武士氣質で、一見顔は丸でブルドック其のまゝ、顔は一面髭だらけ見るからに恐ろしい様な人であつた。今の時代に申せば野球の應援團長と云う處、この主任様は何事に依らず口よりも手の方が余程早く、今になつて自分等も白状すれば或る年に連年鮭鱒捕獲採卵孵化成績表の作製を命ぜられた事があつた。

見廻ると今の千歳孵化場と違い、昔は養漁池の附近などは淋しく雨上りには三、四尺もある青大将が二、三匹は必ず居つたものだ。處がこの主任さん早速之れを生捕り、三平等の自炊をして居る官舎の窓より座敷に投げ込み、何知らぬ顔をして事務室に歸る。然るに自分等はこんな事とは夢にも知らず、歸宅匂々台所にて夕食の仕度をなし、ランプを付け早速食事を初めると、座敷の隅の方より「ヨロ／＼と動き出すものがある」と見るや、全く一時は腰をぬかさん許りに戸外に飛び出た事もあつた。其の後度々こんな事があるので自分等も余程馴れて来た。又或る時は机の前にある座布團の下に青大将を入れてあるのも知らず、其の上に座り込んだ事などもあつたが、今はあの世に行かれ、やはりこんな事をやつて、人様否佛様達を困らせて笑つて居らるゝかと時々自分ながら吹き出して笑う事もある。而し三平等も遠からず一度は特別仕立の自動車にて行く事だから又何かやられるかと今より其の準備に取り掛つて居る次第である。

次に三平が最も永年使われて来た場長の内でも、今でも忘れる事の出来ない場長が居られた。この場長は常によく自分等に申された事は、決して「部下を殺すな傷つけるな」と云う一言で自分も度々聞かされた。場長は今日迄決して一人として部下を殺した事はない。假令部下が公務上又は私事重大な過失があつても決して攻めた事はない。

賠償すべきものは場長自ら私財を以つて賠償し、本人將來の爲め退職に際しても昇級賞與を充分に與へ、尙家庭をも考へ更に本人に就職先をも心配して後、退職せしむるが如きは全く神の仕事とより思われぬ。或は部下が病氣でもなれば自ら病室の三等寢台の側に毛布をかぶり、一夜も二夜も看護して居らるゝ事は決して珍しい事ではない。又は永年部下が病氣の爲め當然退職の余儀なき場合と雖も、其の爲め一家が路頭にさまよう事があつてはと心配せられ、せめて子供が學校を出る迄其のまゝ職に就かしめ、其の結果監督官廳より當人の退職を迫られた事も二、三回あつたが、場長は頑んとして聞き入れなかつた。又三平が明治四十年芳紀正に二十八才の小壯青年場長として北海道水産試験場西別支場に颯爽として赴任した事があつた。其當時場長は自分に呉れぬも云われた事は「この度君が行く處の場員は君よりも皆んな年長者で、學歴経験を有する人々である。而しこの度の事件としては不心得一人や二人の退職をさせなければならぬ立場になるから、人を退職させる以上は其の人に對しては其の罪を問はず、出来るだけ恩典を與へ豫算の許す限り昇給賞與は勿論、退職後は他に就職せしめ一家生活に支障を生ぜざる様にして後、退職手續をしなければならぬ」と申された。實際場長は部下に對してほんとうに親身も及ばぬ程であつた。

これは三平一人の事でもなく、當時の部下であつた人々

又は其の他に於ても決して間違はない。場長は常に大局を見て、其の他の細部の事は全部各係の人々に一切を任せ、必要以外は重箱の隅を楊子で堀り出す様な事は絶対になく却つて其爲め部下は責任の重きを感じた位であつた。又常に職員に對しては必要以外の事は口にもせず、毎日出勤されても場長室に一人にて調査又は各種の研究及計畫等に没頭せられ、別に職員と無駄話しなぞ聞いた事は更になく、こんな譯だから一見人付きのない様に考へられるが、全く反對に非常に親しまれてあつた。之れは世間に云う人徳のしからしむる處である。世間では何んとかして御自分の人氣を集め様として女子供の氣嫌迄とつて居るにも係らず、其の蔭では取巻き連中以外の者には殆んで唾棄されて居る様な人より見れば全く雲泥の差がある。今更ながら世の中と云うものは、まゝならぬものと三平なぞも最近色々考へさせられる譯である。

余りに永くなつたので、紙面の制限によりこの邊にて擲筆し後日改めて書く事とする。(昭和二十二年五月配)

官營鮭鱈孵化事業を民營に

還元方の陳情について

昭和二十二年五月二十九、三十の二日間、札幌市北四條西一丁目北海道水産物製造業會々議室に於て開催の本組合第一回通常代議員會に於て、現存官營鮭鱈孵化事業は概近

はよく知つて居られる事と思う。今や場長は幽明處を異にして殘された人々は今尙お場長の徳をしたい集る度に當時の人々と共に思い出されて居る譯である。

更に三平は今一つ記載せんとする場長の一人がある。この場長は前に述べた第一項より第四項に至る最も代表的の人であつた。常に考へて居られる事は場員間の「和」と云う事に重きを置き、よく場員に訓示をされる時は必ず御互に仕事の成績を擧げるには何んとか云うても場員間の「和」がなければ如何に努力したからと云うても絶対に不可能であるとよく申された。従つて當時は場内は實に朗朗であつた世間でよく聞く話したが、上司が居る時は極めて職務に勉勵の様に見えるが、いざ上司が出張とか又は事故の爲め不在の時は丁度籠より放された小鳥の様に、一目散に飛び出して誰れ一人仕事をして居る者は見當らぬ故に、上司の不在を部下は一日千秋の思いで待つて居るからやり切れないこれ等是要するに、常に餘りに部下を彼れこれ八ヶ問敷く云う結果で、こんな上司に限り取巻き連中、即ち一名私設秘書、情報部或は特務機關と云うが如き特種の言葉はよく聞くが、この場長在職中は誰れ一人として絶対に耳にした事はない。上は係長より下は給仕、小使さんに至る迄場長に對し不平なぞ一言も云う者は金の草鞋をはいて探しても一人も居らなかつた。場長は常に人には誰れでも長所と短所があるから、よく其の處を見てやれば仕事の上にも於ても

我が國の經濟並に社會情勢に鑑み、之を民營に還元せられたいとの旨決議になつたので、之を左記陳情書となし同年七月十九日附を以て北海道廳知事並に北海道水産孵化場長宛提出した。

陳情書

晩近我が國の經濟並社會情勢に鑑み、官營鮭鱈孵化事業を民營に還元せしめられたい。もし之が急速移管困難なる場合は暫定措置として親魚捕獲事業を本組合に全面的に委託經營せしめられ度く、本組合第一回通常代議員會の決議により此段謹んで陳情申上げます。

理由

本道水産業の重要位置を占むる鮭鱈漁業の消長が、著しく人工孵化放流事業の成績に左右せらるゝことは常識的事實であり、今更論議の餘地の無い處であります。

顧みるに本道に於ける鮭鱈人工孵化事業は、遠く明治十年前に創始せられ、今日迄七十有餘年の星霜を閱し、其の間幾多變遷を経たのでありますが、昭和九年に至り北海道廳に於ては時代の進運に伴う合理的經營を爲す上に於いて之を統制強化するの要に迫られ、先ず民營孵化場中蕃殖上重要なりと認められた三十八民營孵化場を官營に移管、次いで昭和十九年に至り更に官營事業の完備を期する趣旨により道内に殘存する個人經營孵化場八箇所をも一齊に官營に移管せられ以つて現在に及んで居るのであります。

以上の如く本道に於ける鮭鱒人工孵化事業は、近年急速な變遷を見、その結果今日世に誇り得る成果を示すことになつた要因の一部を形成したのでありまして、之を要約すれば各々の時代に於ける官民當事者の密接なる協力犠牲の賜であり、其の功績に對しては衷心感謝に堪へぬ處であります。

然るに今日官督孵化事業の現状を見るに、官督移管の主眼たりし一元制統制と國費による維持増強は必ずしも満足する域に達せず、所によつて寧ろ設備の腐朽を放置し爲之、能率を低下せしめたる處もあるやに諒察せられ、往時の民督時代に比し改善向上したとは申し難い點も多いのでありまして、一方今後戦後復興に尅大な算算を必要とする國家の經費に期待し得る範圍には自ら限界があり、飛躍増強は愚か荒廢せる之等諸設備の刷新復舊すら危惧せらるゝに至つたのであります。

尙時代は轉換して漁業の經營も強く民主化を要求せらるゝに當り漁業資源の涵養は漁業者自らの意志に於て行ふことが當然であると信ずるものであります。

就ては此際孵化事業は再び民督に還元せらるゝことを要望する次第であります。それには眞に官民の要望に應へて設立せられたる本組合の如き全道鮭鱒漁業者団体の自治的經營に移管するときは、會つての如く多数の異なる經營主体が相對立し、一貫せる企業性に缺除せる往時とは異り當該官邊指導の下、關係業者の總意を統一反映せしめて之に當るならば、年々窮屈なる國費豫算に拘束せらるゝことなく、所謂民間經營の妙を發揮し自由潤達、しかも柔軟にして彈力性ある企業の下に其の發展を期し得べく、之が實現を期せらるゝやう衷心懇願する次第であります。然し乍ら一方本事業の如き特殊な

漁業協會に於ても昨年九月十九日緊急役員會を開催して慎重討議を重ねた結果、農地制度の改正に於てさへ耕作農民に土地の私有を認められたる實情に鑑み、實際漁業經營を爲しつゝある漁民に漁業権を免許せらるゝことは當然なりとなし、左記八項目を當局に要望し之が實現を期することにしたので、九月二十二日上京された道會議員相内石藏、村山喜作の兩氏に依頼して之を中央當局に反映して貰つた。

記

一、鮭鱒定置漁業権は之を従來の漁業権者であり、而して實際經營して居る個人に免許せられたい。尙其の更新をも認められたい。

一、漁業権の整理は當然のことであるが之が整理の対象は不在漁業権或は永年休業して居る漁業権とせられたる。而して資材入手難或は經營合理化の爲め一時休業して居る漁業権は整理の対象より之を除外せられたい。一、整理したる漁業権の場所には同一種類の漁業権を免許せぬは勿論、既存の漁業権に障害を與うるが如き漁業権は之を免許せぬ様にせられたい。

一、漁業権管理の爲め民主的漁業管理委員會を設定する場合、其の審議の公平を期する爲め漁業種別部會を設けて運営せしめ、關係なき漁民を委員會の組織員とせぬ様にせられたい。

る技術を必要とし、廣汎なる地域に多数の事業体を置く等々の特質に鑑み、急速復元の困難なるを豫想せらるゝときは、不取敢孵化事業成敗の根幹である親魚捕獲事業を孵化施設事業から分離せしめ、全面的移管を見る迄の次善案であり、又暫定的措置として民督に依り能率向上を期し易く且急速實現の可能性を有する親魚捕獲事業を全面的に本組合に委託經營せしめ、適當の時期に孵化事業の全面的移管を行うの方法により傳統ある本道鮭鱒孵化事業の國家的使命達成に邁進したく、茲に本組合第一回通常代議員會の決議を以つて謹んで懇願申上ぐる次第であります。

昭和二十二年七月十九日

北海道鮭鱒養殖水産組合

組合長 半田芳男

北海道知事 田中敏文(宛各通)
北海道水産孵化場長 野田信俊(宛各通)

漁業権制度改正問題に就いて

終戦以來澎湃として興つて來た漁村民主化の爲め、漁業権制度の改正を要望する聲が熾烈となり、朝野を擧げて研究討議中の模様であるが、北海道會常任委員會に於ても昨年九月二十二日委員長相内石藏並に委員村山喜作、松平武一、石崎金作、高橋源次郎の四氏を上京せしめ、中央關係當局に陳情せらるゝこととなつたので、北海道鮭鱒

一、漁業の免許事務は地方の實情に精通し且つ處理の迅速を期する建前より従來通り之を地方廳に委任せられたい。

一、漁業権の免許に當りては資源培養に關する條件を附せられたい。尙定置其の他定置漁業を以て鮭鱒を混獲する場合に於ても之に準ずる様規定せられたい。

一、漁業権制度を決定する場合は、利害關係を有する業者の意見を必ず事前に徴せられたい。

一、漁業権の整理或は一部移轉する場合は、適當なる補償制度を設けて之を實施せられたい。

北海道鮭鱒漁業協會の誕生

昭和二十一年九月設立された北海道鮭鱒養殖水産組合は爾來其の目的とする北海道水産孵化場の官督孵化事業に協力して鮭鱒族の畫期的蕃殖保護を圖ると共に、鮭鱒漁業の飛躍的發展を期する爲め只管活動を續けて來られたので、之が短所を補うと共に鮭鱒養殖組合と表裏一体となり、資材の斡旋、價格の是正其の他斯業振興に關する諸般の問題を解決する爲め自由潤達、しかも柔軟にして彈力性ある活動を展開し得る機關の設立を要望する聲が全道斯界の輿論となりつゝある情勢に鑑み、昨昭和二十二年七月三十一日同志相謀り既設の北海道鮭鱒養殖水産組合事務所内に北海道

鮭鱒漁業協會を設立されたが、其の創立總會にて表紙裏に記載の諸氏が初代の役員に選任された。

鮭鱒公定價格是正運動の概況

昭和二十二年七月三十一日設立された北海道鮭鱒漁業協會に於ては、秋鮭の着漁期を目標の裡に控へ、其の鮭鱒公定價格は本道の實情に即せず、しかも其の反面資材高騰の爲め經營難に陥りつゝある現状に鑑み、速かに之が是正方に關する猛運動を展開することに決議になつたので、發足の翌日即ち八月一日初代役員に擧げられた半田會長を先頭に船越常務理事、石田、若井、松永、相原の五理事、佐賀吉岡の兩評議員等一行は北海道地方物價事務局並に北海道廳を訪問して夫々陳情する處があつたが、更に石田露松、若井善藏、吉田繁雄の三氏を全道鮭鱒漁業者の代表として八月十九日より九月三日まで上京せしめ、物價廳長官並に農林大臣等に對し左記陳情書を提出して具に本道鮭鱒漁業の實情を述べ、公定價格の是正方を懇請された結果、鮮鮭鱒價格改訂に付ては既に改訂済にて手遅れであつたが、鹽鮭鱒の公定價格改訂については本道の願意を全面的に採擇せられて現行公定價格の通り之を改訂せられ、九月一日より實施せられたことは、斯業振興の爲め眞に欣びに堪えぬ處であつた。

陳情書

昭和二十一年九月十七日、物價廳告示第六十八號を以て告示になり、同月二十五日より施行せられ、更に昭和二十二年四月十九日、同廳告示第七十二號を以て其の一部が改訂になつた現行鮮魚介類最高販賣價格指定本道産「まけ」「ほんます」及「さくらます」の卸賣業者販賣價格の統制額は最近累起せる經濟界の諸情勢に鑑み、本道の實情に即せず、吾等當業者の蒙る打撃は極めて甚大であり、現行販賣價格のままでは到底採算が立たず、經營不能に陥り延いては生産の減退を招來することは必然のことと存じます。就ては本道産の「まけ」は之を一級に「ほんます」及「さくらます」は之を二級に夫々改訂せられたい。尙亦鹽鮭鱒の販賣價格は右鮮魚の改訂販賣價格を基準として現行販賣價格を改訂せられますよう茲に全道鮭鱒漁業者を代表して謹んで陳情申上げます。

理由

本道に於ける鮭鱒漁業は創業以來七十有餘年の風霜を閲し、其の間幾多の豊凶がありましたが、今日尙鮭五萬石、鱒十萬石の漁獲を維持し本道の水産經濟上に大なる寄與を爲しつゝあることは、多年官民協力一致、之が資源の維持培養に、漁業經營の改善刷新に勉める犠牲と努力とを拂つて参つた賜なのであります。而して本道に於ける鮭鱒漁業の經營は曾つての北洋漁業の様な資本的經營ではなくに夫々改訂せられたい。尙亦鹽鮭鱒の販賣價格は右鮮魚の改訂販賣價格を基準として現行販賣價格を改訂せられ、以て鮭鱒漁業の振興を圖り、斯業を通じて祖國再建の大業に邁進せしめられます様懇願申上ぐる次第であります。

昭和二十二年八月十四日

北海道鮭鱒漁業者代表

札幌市北二條西三丁目一番地

北海道鮭鱒養殖水産組合

組合長 半田芳男

札幌市北二條西三丁目一番地

北海道鮭鱒養殖水産組合

會長 半田芳男

會長 半田芳男

理事 野力三

理事 田重夫

理事 宛各通

理事 中敏文

理事 文

理事 文

理事 文

理事 文

理事 文

理事 文

理事 文

理事 文

理事 文

理事 文

理事 文

理事 文

北海道鮭鱒漁業協會宗谷支部の結成

宗谷支廳管内に於ける鮭鱒漁業者佐賀正三民外十四名は同支廳管内に於ける鮭鱒漁業の健全なる發達を促し、併せて會員相互の福利増進を圖る目的を以て昭和二十二年十一月三日、北水宗谷支所會議室に參集して慎重協議の結果、本鮭鱒漁業協會宗谷支部を結成されたことは斯業振興の爲め誠に慶祝に堪えぬ處である。而して之が創立總會に於て

概ね地方的中小漁業者の共同經營であり、其の漁獲高は五十石より百石を目標とし、北洋の五千石より一萬石を目標として居つたものと著しく相違する漁業状態なのであります。尙亦其の漁業時期も北洋海上の解凍期なるに反し本道に於ては極めて荒天時期にて歳々災害を蒙つたことも多いのであります。従つて生産原價も北洋のそれに比し著しく増高を來して居つたのであります。従來資材の配給に於ても、價格の設定に於ても、之等本道斯業の特殊事情を認めらるゝことなく、極めて不利な立場に置かれて居つたことは歴然たる事實でありました。それにも不拘吾等當業者は當時時局の重大なるを深く認識して總ゆる障得を克服し、不利を忍んで黙々として今日まで生産増強に努力して参つたのであります。

乍然我が國は終戦に伴い千島、樺太、勘察加等に於ける鮭鱒族の大漁田を喪失した爲め、之が補填策は本道に於ける斯業の振興的蕃殖保護を圖ると共に、漁業經營の飛躍的改善刷新を期する以外に方途のないことは今更申上ぐるまでもないことであります。従つて吾等當業者の使命も亦曾つてない重大性を加へられたのであります。最近累起せる經濟界の惡情勢を克服して、此の重大使命を達成する爲めには現行販賣價格を以つては到底採算が立たず、經營不能に陥り延いては生産の減退を招來することは火を見るよりも瞭かなこととあります。殊に一般國民の嗜好に於ても將亦其の食味や營養價値に於ても一級たる「まぐろ」や「ぶり」に優ることも劣らぬ本道の「まけ」が二級であり「ひらめ」「はも」が二級であるのに「ほんます」「さくらます」が五級であることは全く不合理のことであり、何うしても首肯の出來ないこととあります。就ては本文の如く「まけ」は之を一級に「ほんます」及び「さくらます」は之を二級

左記の諸氏が役員に選任された。

記

支部長	松永 富男(頓別)	理事	岩谷 弟吉(枝幸)
常任理事	佐賀 正三(稚内)	評議員	辻 力三(稚内)
理事	荒川徳次郎(稚内)	同	岩泉 由吉(宗谷)
同	石塚 正之(宗谷)	同	櫻井 喜芳(猿拂)
同	市川 春政(猿拂)	同	市川 勇(頓別)
同	菅 豊作(頓別)	同	横濱 龜藏(枝幸)

彼任及辭令

(一) 北海道水産孵化場關係

◎昭和二十二年五月一日

地方事務官 小林 修平

二級に陞叙せられ北海道水産孵化場在勤を命ぜらる。

◎昭和二十二年五月三日

北海道技術吏員 幸内 慎次郎

二級に陞叙、十二號俸を給せられ北海道水産孵化場十勝支場長を命ぜらる。

北海道技術吏員 木村 鎭郎

二級に陞叙せらる。

◎昭和二十二年六月十九日

地方技官 山 本 信

北海道帝國大學醫學部附屬病院に於て死亡せらる。

◎昭和二十二年八月十五日

北海道技術吏員 野田 信俊
地方事務官 小林 行夫

北海道水産孵化場長事務取扱を命ぜらる。

◎昭和二十二年八月二十五日

星野 克巳

北海道技術吏員に任ぜられ三級に叙せらる。

北海道技術吏員 星野 克巳

九號俸を給せられ技師に補せらる。

北海道水産孵化場千歳支場勤務を命ぜらる。

三 浦 誠

北海道技術吏員に任ぜられ三級に叙せらる。

北海道技術吏員 三 浦 誠

六號俸を給せられ技師に補せらる。

北海道水産孵化場千歳支場勤務を命ぜらる。

◎昭和二十二年九月十三日

北海道技術吏員 柴田 幸一郎

北海道水産孵化場千歳支場長不在中支場長事務取扱を命ぜらる。

◎昭和二十二年九月二十五日

北海道技術吏員 加藤 梅太郎

北海道事務吏員 角 田 英三

北海道事務吏員 田 中 道政

◎昭和二十三年二月九日

北海道技術吏員 佐野 誠三

北海道技術吏員 山本 喜一郎

二級に陞叙せらる(各通)

北海道技術吏員 佐野 誠三

北海道水産孵化場千歳支場長を命ぜらる。

北海道技術吏員 新妻 六郎

北海道水産孵化場虹別支場長を命ぜらる。

北海道技術吏員 水戸部 勝次

北海道水産孵化場渡島支場長を命ぜらる。

北海道技術吏員 小野 政秋

北海道技術吏員 柴田 幸一郎

北海道水産孵化場本場勤務を命ぜらる(各通)

(一) 北海道鮭鱒養殖水産組合關係

北海道鮭鱒漁業協會關係

◎昭和二十二年九月二十六日

紋別町 古屋 憲吉

事務を囑託せらる(水組)

◎昭和二十二年十月二十一日

浦河町 高橋 健吉

事務を囑託せらる(水組並協會)

◎昭和二十三年一月二十九日

技 師 坂井 清榮

願に依り本職を免ぜらる(水組)

死亡せらる。

北海道水産孵化場在勤を命ずる。

北海道技術吏員 品川 金次郎

願に依り本職を免ぜらる。

技術吏員 品川 金次郎

◎昭和二十三年一月七日

技術吏員 品川 金次郎

二級に陞叙せらる。

北海道水産孵化場在勤を命ずる。

北海道技術吏員 品川 金次郎

北海道技術吏員 石 垣 巍

願に依り本職を免ぜらる(各通)

◎昭和二十二年十月一日

北海道技術吏員 水戸部 勝次

北海道水産孵化場事業部勤務を命ぜらる。

北海道技術吏員 木村 鎭郎

北海道水産孵化場長を命ぜらる。

地方事務官 小林 行夫

北海道水産孵化場長事務取扱を免ぜらる。

北海道技術吏員 廣重 兼太郎

北海道技術吏員 板 谷 茂

北海道技術吏員 板 谷 茂

願に依り本職を免ぜらる(各通)

◎昭和二十二年十一月三十日

北海道技術吏員 伊 藤 繁

北海道技術吏員 伊 藤 繁

願に依り本職を免ぜらる。

技術吏員 品川 金次郎

技術吏員 品川 金次郎

技術吏員 品川 金次郎

技術吏員 品川 金次郎

技術吏員 品川 金次郎

技術吏員 品川 金次郎

○多年本道水産孵化事業の爲め多大の貢献をせられた北海道水産孵化場の野田場長さんが洵に惜別の情に堪へぬ處である。さりながら其の後任として茲に會つての幕下であつた木村新場長を迎へたことは、獨り木村氏の榮譽たるのみならず、斯界の喜びであり、編輯者も衷心慶祝に堪へず切に御健在を祈つてやまぬ次第である。

○季刊誌である本誌が復刊號を出したのみで空しく一ヶ年を経過するに至つたことは、たとひ其の間幾多の障害があつたせよ所詮編輯者の怠慢であり讀者各位に對し申譯のない次第で茲に衷心より御詫びを申上げる就ては之が挽回策として四十五、四十六、四十七の合併號を出すこととしたのであるが、斯種雜誌としては事例のない不体裁のことであり、就中、十五頁に涉る鮭鱒親魚捕獲採卵成績掲載の如きは一入其の感を深くする處であるが、これも本誌が創刊號以來研究上の資料として引き續き此等の資料を掲載して來た編輯方針であるので、遂かに此の方針に變更を加ふることも本意な

らず、休刊中の分とも一括本誌に掲載した理である、御諒承を乞う。

○水産孵化場の山本さん、柴田さん並伊藤さん、水産試験場の川合さん等より公務御繁用中にも不拘價値高き玉稿を賜はり感謝に堪へない。次に函館高水の中村氏の原稿は本誌休刊中の御投稿に係り掲載の時機を逸したきらいがあつたが、貴重な論文であるので一應同校渡邊教授に御高閣を御願して採録した次第、同教授の御厚意に對し厚く謝意を表す。

○並木氏は本組合の事業部長として平素極めて多忙の身であるが、寸暇を割いて本誌の爲め在華時代の豊富な体験に基き執筆せられたのであり、其の勞苦に對し感謝の意を表す。

○本誌の編集は從來研究論文の採録に主力を注いだので生硬であり、一般組合員の指導雜誌としては研究の餘地なしとせずとの好意ある忠告もあり、編集者も至極同感なので早速本誌より趣味欄を再設して潤をつけることと致しました。地方の傳説なり、風物なり、記行文なりとし、御惠投を願う令名道の内外にとゞろく秋味三平氏や生佛生の隨筆、是非御一讀を願う。(千石生)

寄稿歡迎

一、鮭鱒、淡水冬魚、淡水養植、河川、湖沼等に關する理論及び應用兩面の寄稿を歡迎致します。

一、本誌に掲載せるものには薄謝を呈します。本誌は年一回(一月、四月、七月、十月各下旬)發行豫定に付原稿は發行日の約一ヶ月前迄に鮭鱒繁殖係(北海道鮭鱒繁殖水産組合内)宛御送付を願う。

昭和二十三年三月二十五日印刷
昭和二十三年三月二十八日發行

定價 金五拾圓

編輯者 半田芳男
電話二、八五〇番

印刷者 小林憲司
電話六、五七二番

印刷所 小林印刷所
電話六、五七二番

發行所 北海道鮭鱒繁殖水産組合
呼出電話二、四五三番

本組合要覽

一、沿革 本組合は昭和二十一年九月一日水産組合法により北海道知事の認可を得て設立した團體であつて、其の目的とする處は北海道水産孵化場の官營孵化事業に協力して鮭鱒族の蕃殖保護を圖り、鮭鱒漁業の健全なる發達を促し以て組合員の共同利益を増進するにあるのである。而して之が地區は北海道一圓であり、其の地區内に於ける鮭鱒漁業者及び同漁業者八百有餘名を以て組織したものである。

二、業務 本組合の業務は(一)鮭鱒族の人工孵化及び天然蕃殖保護に關する事項、(二)鮭鱒族の増殖試験指導調査に關する事項(三)本組合の事業施行に伴う漁獲物處理に關する事項(四)鮭鱒漁業の調査及び紛議の調停に關する事項(五)前各號に掲ぐるもの、外本組合の目的達成に必要な事項等であるが、本年度實施事業の概要を示せば左の通りである。

一、鮭鱒親魚捕獲事業の委託經營
北海道水産孵化場の官營鮭鱒孵化事業に協力する目的を以て鮭鱒親魚捕獲事業の委託を受け、本組合で經營し母職の充實を圖つて居る。
二、官營鮭鱒孵化事業に對する協力
現下の經濟並社會情勢に鑑み、官營孵化事業の施行上資材及び勞務者の供給面に於て高度の協力をする。

三、鮭鱒孵化事業の障害除去

鮭鱒孵化事業の効果を一層外むる爲め、專屬監視員數名を設置し、密漁防止に努むると共に鮭鱒の稚魚を捕食して産卵を阻害する鱸、雨鱒、いとう其他の害魚を驅除する。

四、鮭鱒孵化事業の擴充強化

官營鮭鱒孵化設備の擴張、増設困難なる場合を考慮し本組合で簡易孵化場の設置並鮭鱒の折上調査等をする。

五、鮭鱒孵化事業の普及宣傳

關係機關と協力し講演會開催、其他適當なる方法により、鮭鱒稚魚愛護及び天然産卵保護等蕃殖保護觀念の普及徹底を圖る。

六、鮭鱒繁殖の發行

創刊以來十有九年間の歴史を有し、顯著なる業績をのこした鮭鱒繁殖誌の休刊を遺憾とし、之を復刊して本組合の機關誌となし全組合員並道内外の關係方面に無償頒布して斯業の改善進展に寄與すると共に、其他斯業に關係ある必要印刷物を刊行する。

三、事務所並事業所

本組合の事務所は之を札幌市北二條西三丁目一帯地に置き、更に事業進行の必要上左記事務所並駐在員を置いて居る。
西部事業所 札幌市北二條西三丁目一帯地(主任) 並 木延郎

十、業務所

帶廣市西一ノ丁目十九番地(主任) 平野昇

網走事業所 網走市南九條西二丁目(主任) 古都備一

紋別事業所 紋別郡紋別町四區(主任) 岩佐忠重

釧路駐在所 釧路市富士見町六九番地(駐在員) 池田義良

四、役員

組合長	半田芳男
副組合長	古屋正氣
常務理事	植松鶴治
理事	船越重男
同	相原武治
同	松野仁郎
同	米澤竹男
同	三好兵衛
同	奥田一衛
同	水澤太郎
同	榎木仁龍
同	榎西眞平
同	大西富平
同	石田富松
同	佐藤常三
同	山本哲三
同	堺保四郎
同	新保四郎
同	林好次